近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

（1）　このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。

（2）　このデジタルアーカイブの利用に際しては「東京大学経済学図書館電子資料利用規則」に同意したものとみなされます。

（3）　印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。

（4）　画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。

（5）　画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。

（6）　文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。

（7）　本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。

（8）　本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

東京帝国大学
経済学部
研究室
80
561

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

足軽起源

上

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

34891

足軽起源

鬼谷山人　忠明述

足軽トハ云ヘルヿイフノ項ヨリ始リシニヤ其由来スル所タレカナル事ヲ知ラズト或人ノ説ニハ源義経カ衣川百首ノ歌ノ中ニ足軽トハ云フノ見ヘシコノ足軽トハ云ヘル名ノ出タリシ始トモ云ヘレトナンヲシ説モ見レ侍レト其歌ニハ「アレカロハ関々ト居テカハルヘシ唯肝要ハ備ナリケリ」トハ云フノセタリ是足軽トハ云ヘル名目ノ云タル始ニ云ヘキニヤサレト此衣川百首トハ云ヘルモ

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

義経ノ作レル所ト云テ近世其一冊ヲモテハヤレ
スレト其傳来セシ所モサタカナラス後世ノ偽書ニ
多ク義経正成ノ名ヲ仮リテ作意セルモノモ見レ
侍レハ此百首トテモ其真偽ヲタレカニスヘキ書
アラスト考ノ一助ノ為ニ其支ヲ出レヌ猶大ヨリ
前ニ平家物語熊谷平山城ノ寄口ノ條ニ足
軽トテ見ヘ侍ル又源平盛衰記同レ合戦ノ條
ニモ其名ノ見ヘ侍レハ記聞ノ記ハ中々ニ此二條ヲ
コソタレカナン據ロ有リトヤセン其事ハ左ニコレ

ヲ記ス

長門本平家物語熊谷平山城ノ所コノ條ニ
梶原平三コレヲ見テ口惜キ殿原哉ワレキテ人ノイク
子ハコソ河原太郎兄弟ヲハ討タセタレアタラモノ哉ト
五百餘騎押ヨセテ足アロ共ニ逆茂木引退ケサ
セテカメニテカケイルトテ
又源平盛衰記ニ云城難所ニアラス谷河ヲ底ニテ
下ニ堰ヲ築キアラミヲ搭キ水ヲセキ止メタレハ東西
ノ山根ニ湛ヘテ海ノ如クニ見エレハ夜ニ入テ水ニ心

得タタレ足軽兵ノ東ノ山ノ根ヽ遣メレアラミク切リ下
ヨスナクハ山川ノ習ニテ水ハ程ナク早落候ツシト
云
按ルニ此頃ノ足軽ト云ル者如何ナル仕業モテ其
職トセレニヤ見ル所ナレトイ(ヒ)此ニ條ニヨリテ其
仕業ノ考ルニイカニモ歩卒ノ賤職ニテ戦闘ノ
武士ト同等ナクナルヿ知ル(ヘキ)ニヤ
忠明按ルニ之軽トモ云ル名ノ其由来スル所ノ考ルニ
本朝ノ古兵ノ籍スルハ軍団トモテ其法民兵ノ用シ
ナレハ武官ノ士ト云ルハ只其隊長タル者ノミニシ
テ其餘ハ皆民ノ籍ノ兵トハナセレセ
所謂唐ノ府兵ノ法ニ擬リレトハ見(ヘタリ)
偖其民兵之内ニテ騎ニ便ナル者ノ以騎兵トナシ歩ニ
便ナル者モテ歩兵トハナセレナレハ騎歩ノ兵ヒニ
皆民兵ノ内ニテ夫レ〻ニ騎歩ノ分ヲ定テ一軍トナ
セレナレハ今ノ伐ノ如ク騎歩ノ差別アルヿニ非ス只伍
法ノ組合ノ本トシテ民兵ノ組立レトハミ(タリ)後此法度
レテ別ニ弓矢ノ家トモ者出来テ自ノ農兵ニ又分レテ

軍陣ニ出テ決戦スルモノハヒタスラニ武士ノ役トナリテ民ノワザフ事ハ唯大荒子運送等ノ一ノミニ用ル如ノナリ行キレモセノ汐草ノ一大変ニテ一キニヤ

唐ノ府兵後ニ改リテ彍騎トナリレモ

本朝弓矢ノ家トナリレト一途輒ナルモ亦一奇変トモ云ツキニヤ

サレハ此ケ騎兵トモ云ハ専武士ノ業トナリタルナレハ古昔軍国ノ節ノ騎兵トハ其アツカヒ大ニ事替リ古隊ニノ如キ者ナベテ兵士トハナリレナレハ是等ノ輩仏法ノ以紐ニ可キ者ニ非スサレト一軍畫ノ騎馬ナル者ニアラ子ト専ニ騎ノ重レルル風故一軍ノ押ナ一テ百騎千騎萬騎トハ云レナレト是皆騎馬武者ノ数ニ如此其数アルニアラ子ト騎馬武者ノ主トレテ斯クハ云レトモ〳〵タリ然ルニ其騎馬武者ニ随従スル家ノ子郎等ナトハ歩兵ナリレ者多カリレ故ノ以其騎兵ノ名目ニ対メ歩兵ノ変ノ是転トハ云レニヤ前ニ出セル平家物語感衣記ニ出セル可ノ足転ノ仕業モ是等ノ類トコフハ知ノレケレ

又兵書ニ云可ハ古ハ馬ニ乗タル者ニテモ転ハタラキ

スル者ヲ押テ之軽ト云ヒレトナン兄ユレト其由来スル所ヲ以テ考ルリハ本文ニ云如ク騎馬ノ兵ニ對シテ歩兵ノハタラキスルモノヲ之軽ト云ヒレ的當ニモ侍ランカ

本文ニ云所本朝軍團ノ兵制考ノ為其アラマシヲ左ニ録之

凡民ノ點スルノ法民年二十以上ヨリ六十以下ヲ以正丁トストヲシ

持統天皇ノ時諸國ノ民四分ノ一ヲ點メ兵トストヲシ

今ノ定ニハ三分ノ一ヲ點レテ兵トストヲクサテ其兵ヲ點スル法ハ租庸調ノ三ツヨリ出タリシ所謂有田則有租トシテ租ハ田ヨリ取ル所ノ年貢ノ支ニノ二十分ノ一ヲ税スル之法シ又有身則有庸トシテ庸ハ身ノ稼ヲハタラキヨリ出ル所ノ年貢シ又有戸則有調トシテ調ハ一家々々ノ間ヨリ出ル所ノ年貢シ此租庸調ノ三ツハ年ヲ公家ノ収納トハナレルシ然ルニ其民ノ内ニテ擇ハレテ兵士トナル件

此兵士トヲハ則今世ノアレカロノ類ニテ則仏ノ兵

也

其身ノ庸ヲ免ルサレテ只租ト調トノ二ツヲ収ル也

此ニ扶ハレテ兵士トナルトキハ只兵士トナルコトヲ申シ付ラレタルマテニテ猶我家ニアルヤウニサレト擇ハレテ兵士トナリタル上ニテハ弓馬其外ノ武士ノコトヲ習ハヌハナクヌエ〳〵其身ノカセキハメウキヨリ出ス可ノ年貢クトル一トノワケナキ故是ヲハ免ルメ出サセメシ我家ニアフテ猶田地ノセ話モ行トミクナレハ田ヨリ出ス可ト家ヨリ出ス可ノ租ト庸トノ二ツノ年貢ハ本ノ如クニ収納スルモ訣ノアリタルコトト知ルヘシ

サテ又兵士トナリテ有内ニ其番ニアタフテ衛士（京都大番ノ役）防人（遠国ノ防守）ノ役ニアテラルヽトキハ庸調ノ二ツ共ニ免ルヤレテ猶租ノ一ツハ其収納ノ二ルスコトナキ心

是ハ其身其家ニ居ラス或ハ京師或遠国ノ住居ナル故家ヨリ出ス可ノ年貢ト其身ヨリ出ス可ノ年貢ノ庸ト調トハ免ルサルヽコトシサレト其持高ノ田畠ハ我家ニアラスヒ或家人クラス耕サレメ又ハ他

人ヘ計レテ勝ラレメテ其取實ヒ有ラナレハ租ノ
年貢ハ猶二ルスラナク收納アルヲモナホト直
ホニワケモ閑ヘタル扱ニテ古代農政ノ淳素ナ
ルヲ欽慕ニ堪ヘタルヲニヤ
征行アルトキニ田租ノ免ストカテ事アツテ軍役ニ
充テラレ出ルトキハ租庸調ノ三ツナカラ免ルサレテ出
ルシ古兵ノ民ヨリ取ノ法アクマレ如此ニレテ兵士トナ
スヲモ別ニ祿米ノ施レアルニアラスレテ其賞ナク其
兵數ノ多ク出ツ(テ積リ古聖賢ノ定メオカレシ
良法シ倩別ニ二萬ノ郷トカ(ル地ノ侍ルハ三善清
行カ意見封事ニハ古ハ一郷ヨリ二萬ノ軍役ノ出
セルトカヲノ書キ載セ侍リシモ彼二萬ノ郷ノ事
ノカヒタリレトノ古歌ニ
貢ハコフヨホロクカブフレハ二万ノ郷人數ソヒニケリ
一郷ヨリ二万人數出セレトカヲノ近世ノ習俗ヨリ見
侍レハ如何ニモ夥キヲノニテ誠レヤラスヤウニナレ閑
ユレト右ニカ所ノ租庸調ノ法モテ民ノ點セレニハサ
モアランカトオモハレテ古昔兵ノ出ハ(ノ多カリレ

了此一事ニテ想ヒ知ルヘキナリ

又唐代府兵之制其大意左ニ録之

凡府有三等千二百人為上千人為中八百人為下七以三百人為團々有校尉三十人為隊々有正十人為火々備六駄トヲヽ

是唐書ニ出セル人数ワリシ一府内ニテ千二百人或千人或ハ八百人ヲ集テ戎ケ可モ立ツキナ京師宿衛ノ備トナセレシ其中ニ校尉ノ官又ハ正ト長トノ役人ヲフテ十人二十人三百人ノ頭トナリシレシ兵ヲ

支配スルシ是ヒ軍團ノ兵制ト聊ヒ違フ事ナク年番ニ京師ヘ兵ヲ集メテ又ハ邊塞ノ防守トレテ不虞ニ備ヘタリシ者トハミヘタリ又唐ノ末彍騎ノ法左ニ出ス

彍騎長役宿衛十人為火五火為團皆有首長又擇材勇有為者頭習弩射　唐書兵志

此彍騎ノ法ハ府兵二事替リ民兵ヲ番代ノ用ルナリシテ長役宿衛セシハ兵ニ擇ハレタル者ハイフマテモ更リ合フ支ナクシテ宿衛ヲ申付ルナレハ我朝武士ヲ

就ハ相分レレト同シ繫ニテ是ヨリ成権武家ニ移リ
王化ノ再ヒ行ハルヽヿナカリシヒ幸和其繫ノ一シテ
皆長役病衛ノ法ヨリ出タリシ禍トハ知ルヿナリ
又明代ノ兵制ハ文武ノ官職ノ二ツニ分チナリ文官
ハ一代限ニシテ封策久第ヨリ各立身セリ武官ハ世職ニ
シテ祿ノ世ヽニス其頭役ノ父ハ代替リノ時一等ノ降叙
ス其職降シハ祿モ戰陣ニ死ル者ハ其子直ニ父職ノ
襲フコレ明代ノ兵制也
明史ニ命大猷父殘棄諸生副世職百戶トヽ是

等本文ノ證トス
元明朝ノ兵制本文ニ云可ニ非スト云ヘ古今兵制ノ
変革ノ豫メニモ喻サンヿ為ニ斯ニ其事ノ録ノ考
ノ一助トハナレヌ
一伍トハ古昔聖賢ノ兵ノ組立テ五ノ可ノ定制ニシテ古
今人数ノ組立ツ千車此伍法ニ出スト云ヿナリ千古
不易ノ良法シ其法五人ノ伍トス五々ノ両トス二十五人
也四両ノ卒トス百人也五卒ノ旅トス五百人也五旅
ノ師トス二千五百人也五師ノ軍トス一萬二千五百人

セコレ仏法ノ成数ニ百千萬ノ衆トイヘドモ一人ノ使フ
ヲ如ノ内在ナルト孫子諸中ニ見ヘタルモ此仏法ノ正ノ
入ルヨリ外ニ出ルヿナレトハ知ルヘキモ明ノ俞大猷ノ著
謂兵法之数起立猶一人之身有立體雖將百萬可
使合為一人也トヽ此一事仏法ノ貴キヿヲ知ルニ
足レリ又斯ニ録ス
異國ノ事ハ諸書ニ具事委細ニ見ヘタレハ如ノ指ノ
是ノ論セス本朝ノ古軍團ノ兵制ナリシ此ハ前ニ論スル
如ノ專ニ唐ノ府兵ノ制ニ倣テ民兵ノ籍シタル故仏々
ノ法ノ用ヒテ分数セレヤ此ハ未民兵ニノミ外レテヨリ
後ハ庄園多ノ領シ家ノ子モ多分持タル輩多武士
トナリテ出ル故一騎ノ武士ニテモ其従者三百五百モ
率ヒテ出ルヤウニハナリテケリ
千葉畠山梶原等皆手勢百二百五百ナト諸書
ニ見ル所シ此家子郎等ノ内多ノハ歩兵ニシテ軽ルハ
タウキニル者今ノ足軽ノ如キ見ヘタレト未タ此時ニテ
モ兵士ト足軽ト相分ツテ其働キノ事ナノ異ニシ
作リシノ見ル所ナシ

大ヨリノ以来武士ノ権ハ頻ニ重クス我カ附属セント思フ
方ヘ随従スルニテ一ニシテ主将トイヘル真生殺ノ専
ニス一キノ勢ニアラスハソレフノ武士已カ伝ノ働キナセシ
レヨリ古ノ仏法ノ制ハイフレアテ失セ果テ一軍ノ大将ト
呼ハルヘモ只諸國集リ勢ノ頭トナルミノ勢トハナリ
レト見ヘタリソレヨリ又世風変革レテ宣所家ノ未
ヨリ長柄トエモノセニ多ク出来レヨリ人々騎戦ノ働キ
自由ナラサルフ以騎馬ノ士トエルハ只物頭物奉行ノ
役トナリキノ真以下ノ兵士ハ皆鎗ノ以歩戦ノ主トスル如
ク成リ行タリ此時ニ至テ武士弥三等ニ分レテ頭クル
者ノ騎馬ト称シ真次ノ歩ニノ士ト称ス
戦士ノ類働ノ仆ハ皆歩行ニナルニ依テ中押前ハ馬上
押ナル故戦士マテハ押ナ騎馬武者トハエ也
真下劣ナル者ノ足軽ト称レナクレアニ三等ノ分アテルト
此時代ヨリ始マレルニア
按ルニ兵學啓蒙ニ古来ハ何レノ家ニテモ士ノ格式次
第アナヤリレ故ニ士ノ外ハナヘテ足軽トエシレ真中ニ
テ勝手方小役人等用者ノ類畫ノ軽ナ役ノ分ハ

皆足軽ニテ直勤シシ是ニ倣テ今ノ代ニテモ家ニヨリ
仮番ノ徒ノ者ヨリ以下ハ皆足軽ニテ兼勤ムヒ有之ト
ヨシ此ニ右来トヲタルハ則武士三等ニ分レタル頃ノ事ト
ハ思ハルシ
前段ニモヲシ如ク世々ノ兵制治革ニ随テ自ラ足軽トヲ
ルル名目ノ起リニ萌芽レテ此時ニ至テ終ニ一等ノ職ト
ナリシモ怪ムヘキ一事シ又前ニヲ所ノ軍団ノ兵制ニ
用ヒタリシ伍法ノ制モ亦代々ノ兵制ノ治革ニ従テ跡方
モナクナリ行キテ近世ノ兵家者流ニ分数ナトノ生ス
ト教ルモノハ當ニ分配組結解或ハ多々益辨ナト其
理論ノミリ説クコト競フヲニシテ分数ノ起源トナル所
ニ心付者ナキニ至ルモコレ然レナハ時勢ノ然ラシムル所
也トイヘトモ長大息スヘキ一事ニシテ花宗茂老後物
語ハ一ルトテ或ル書ニ見ヘタリシハ宗茂カ武略セニ類ヘ
ナク弱年ノ比ヨリ数十百度ノ戦ニ寡ノ以衆ノ討テ
弱ノ以強ニ勝ナ数ケ度ノ苦戦多カリシナト朝鮮征伐
ノ時大明ノ大兵ト戦ヒシ程ノ難戦ナリシ後ナリキ大
明ノ兵我日本ノ兵士ニ比ヘシハ其強弱ナ分ハ一ル程ノ

弱兵ナレト真兵制ノ正レサカ故ニ衆心一致レテ先軍敗ルヽけハ後軍ツヽキ左軍退クハ右軍来リ連續急貫レテ討テモ突テヒルミナク跡勢續キ来リ故終ニ我兵戦疲レテ敗績ニ至ルト詔リレトナレコレ他ナレ伍法ノ制正ク大軍ヲ使フ夏一人ヲ使フカ如キノ兵制ナルヲ斯マテニ衆心一致レテ其令ヲ用ヒ一是伍法ノ戦ニ能アル所ノレルレニテ此一事ヲ以テモ伍法ノ貴キヲ知ルヘシ

一前ニ論スル如ク軍團ノ兵制治草以来既ニ千有餘歳伍法ノ兵制絶ヘテ其事ナカリシニ天文弘治ノ頃ヨリ兵士ト足軽ト其等相分ツテ令配スルヿトナリシヨリ以来其足軽ノ組合古ノ兵制ニ倣ヒテ伍法ヲ以テ分数スルヿトナリシヨリ以来其足軽ノ組合古ノ兵制ニ倣ヒテ伍法ヲ以テ分数スルヿ実ニ一大奇変モ云ヘキ一ニ甲州武田家ノ法ニ足軽ノ人数組ノ法伍々ヲ以一組トスルヿ其定制也

所謂五々二十五人ヲ云也

此五人ニ警固アリ

此ケイコウノ馬上ニモ馬乗ニテ百五人ニ一人ノ伍長アルヲ如シ

サレト大中小ノ差別ニヨリ十人或十五人ノ小足軽預ルモアリ又五十七十百ノ大足軽預ルモ有テ其数一定セストイヘモ五人ノ数ヲハゾルヽナレ可謂原美濃ヲ馬上三十五騎足軽百人横田備中大熊備前ヲ馬上三十騎足軽百人小幡山城ヲ馬上十五騎足軽七十五人ナト見ヘタレハ是等大足軽預リレ例シ山本勘助ヲ初足軽二十五人預ケラレレハ伍ノ足軽ノ本法ノ一ト組ヲ預ケタリレモ其後五十人ヲ加ヘテ通計七十五人預リレヨシ見ヘタレト馬上ノ士如何ホト預リレニヤ又足軽計ニテ馬上ノ士預リレヽナヲリレニヤ其委細見ル可シ又関甚五兵衛ナ身ヲ捨法ヲ背キテ朋友ヲ見逃タリレヲ暗信賞セラレテ足軽十人ヲ預ケレト見ヘタルハ小足軽預ケタリレ證トヤスヽキ

甲州足軽大将興リノ騎馬并足軽左ニ出ス

横田十郎兵衛　騎馬三十騎　足軽百人

原興左ヱ門　騎馬十騎　足軽五十人

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

市川梅印　騎馬十騎　足軽五十人
城伊菴　仝十騎　仝十人
多田治部左エ門　仝十人
遠山右馬助　仝十騎　仝三十人
今川九兵衛　仝十人
江間右馬允　仝十人
関甚五兵エ　仝十人
小幡又兵衛　仝三騎　仝十人
大熊備前　仝三十騎　仝七十五人

三枝新三郎　仝三騎　仝十人
長坂釣閑　仝四十騎　仝四十五人
下曽根　仝三十騎　仝五十人
アンマ　仝五十人
曽根内匠　仝十五騎　仝三十人
曽根七郎兵エ　仝七十人
武藤喜兵エ　仝十五騎　仝三十人
三枝勘解由左エ門　仝三十騎　仝七十人
小幡弥左エ門　仝十二騎　仝六十五人

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

旗本足軽　八百八十九人
總家中足軽　五千四百八十九人
両合　六千三百七十三人
右甲陽軍鑑ニ出ス一所也
足軽皆数ノ多サハ大ニ差別アリトイヘトモ其数五ニハ
ブルヽヿノナキヿノ最眼付クヘキ一所ニ有ンサナ又足軽五
人ニ馬上ノ士一人ヽ差副ルヿノ諸書ニモ一所ノ定制トス
ル一所ニノ侍レト原ヲ足軽更人ニ馬上三十五騎トアレハ
五人ニ一人ヽノ積リヨリハ十五人ノ有餘アリ横田大膳ガ
足軽百人ニ馬上三十騎ハ馬上十人ノ有餘シ小幡内足
軽七十五人ニ馬上十五騎ハ其数五人ニ一人ニ相當レ
リ如此五人ニ一人ノ数ニアタクサルヿ如何ニヤアルヽヿ
按ルニ山鹿氏三等録ニ足軽五人ノ間ニ馬上一騎ヽ
警固ノ武士シ猶馬上多クハ足軽大将ノ跡ニ来ル
ヘシトニシ
此説ニ拠レハ五人ニ一人ノ警固ノ外馬上ノ数多ク預ノ
スルハ其有餘ノ分ハ其足軽大将ノ跡ニイアハトモ刀
付ケ小侍ノ戦士ナトノ心得ヲ以働ク中付ルヿトハ

見ヘタリ甲冑時代ノ足軽大将トスルハ其位イカニモ
重ノ侍大将ト称ノ差アル程ノ職掌ニテ五十騎以
上預ルヲ士大将ト唱ヘ五十騎以下アフナル者ヲハナ
ヘテ足軽大将ト唱ヘシヨシ見ヘタレハ是等ヲ以
テモ有餘ノ分ハ戦士ノ働キ甲付ルヿ掖アリトヤ
スヘキサレト此ケイコノ武士トスハ古昔伍長トスル
トハ其差別皆リテ其職伍々ノ長ナリシ両司馬ノ
職ニ云可キ者ニヤ周禮ニ伍皆有長トステ即五家
同等ノ家士也二十五人ノ長ヲ両司馬トスル中士也ト
云ヘ是ニ因テ見ルヿハ伍長トイヘルハ五人組ノ内ノ
一人ニテ五人ノ外ニ別ニ其頭ヲ立ルニハアラス五人ノ
組合ノ中ニテ才覚アル者ヲ擇テ其組合ノ差別ヲ
ナサセレヿトハ見ヘタレハ今ノ代ニ五人ノ足軽ノ内ニテ
一人ノ組役トスル者ヲ立ルヿコレ古昔ノ伍長ニ云ヘ
キニヤサテ又ケイコノ武士ハ両司馬ノ職ニアタルトス
ルハ両司馬ハ中士ノ職ニシテ伍兵ト其等ヲ異
ニシ又警固ノ士モ騎馬ノ役ニテ歩卒ト其等ヲ
異ニシタレハ古ノ伍ヘ長ハ両司馬ノ中士ニシテ其

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

伍々ノ数ノ外ノ一職ナルト今ノケイコノ足軽二十五人ノ外ノ一職ナルトハ同等ニシテ伍長ハ五人ノ数ノ内ニテ扶ヒ両司馬ハ伍々ノ人数ノ外ニ扶ヒシ一職ナルヿ知ル（キニヤ是等ニ拠テ推考スルサハ伍長ハ五人ノ内ノ一人ナル（シト思ヒシニ其後尉繚子ニ所明詮トスルニ之レリ其説左ニコレヲ出ス

伍長教其四人以扶為教トス

伍長四人ニ教ルト出タレハコレ五人内ノ一人ヲ伍長トスルヿ明白タリ

又本朝ノ古制日本紀大化年中ノ條ニ五家相保一人為長相検察トスヽ

是又本朝ニテ五人ニ一人ノ長立テタリシ證トマセン是等ノ諸説ニ拠ルサハ甲州時代馬糸ト足軽トヲ預ケタリシ本意強チニ五人ノ足軽ヲ指揮スルノミニ限ルヿニ非ス大足軽ヲ預ウシ足軽大将五十百ノ足軽ヲ一人ノ下知ニ廻リ兼ルヲ以其大将ト足軽トノ中間ニ警固騎馬ノ一職ヲ立テ三等トハナセレト見（タリ然ルヲ近世ノ兵家者流ノ教ニ必五人ニ一人ノケ

イコ士ト交メタリシニ泥ミ強ヲ馬上ノ数五人ニ一人ニ
相當セサルクヽ疑ヲ生セシトハヽ〳〵タリ其本意ニ
通スルヽハ如此ノ迷ハ自解ノ〳〵キヿニヲ覺ユシ
一前ニ論スル軍團ノ時代伍法ヲ以テ分數セシヽ時代
ノ沿革ニ從テ跡方モナクナリ行キシカ足軽分數ノ
事起ルニ及テ其間千載ノ久シキニ復シテ其法再
ヽ萠芽セシヿ尤怪シト思ヒシニ凡ソ天理ニ通ノ者
ハ一旦其功大ナルカ如クナリトイヘ天コレヲ興シ玉
ハヌカ故ニ踵ヲ旋ラサスメ其事跡方モナク消滅ス
ルソ浅マシケレ
奈ノ尚就又宋ノ王安石カ古法ヲ変革メ別ニ一
法ヲ立タルカ如キ其法一旦ハ國家ニ大利益アル
カ如シトヽヘトモ其法終ニ行ハレス千載ノ弊ヲ受シ
ヿ深キ鑒トスヘキニヤ
人天理ニ順テ行ハヽ一ハ譬ハ時勢ノ為ニ変革セラ
レテ姑ノカ間ハ廃絶スルニ似タリトイヘ天道ノ絶テ
玉ハヌヿハ必其ヿ終断滅スルヿナク其行ハル可キ時勢
ヲ待テ再ヒ興起スルヿアルモ自然ノ勢サモ有ル可

キ事ナカラ敬シ畏ルベキノ意キコニ有ルベキ新
井筑州ノ鬼神論ノ書中ニ論セレコノ侍リキ事長テ
レト左ニ記之
昔或人ノ深ク好シテ烏骨雞トヽ者ヲ飼レ者ノ中
セレハ此雞ノ毛色白キアリ黒キアリ斑ナルアリ其
中ニ肉ト骨トノ黒キハ藥トスルニヨレ其舌ヲ見
ルニ色ノロテレハ必肉モ骨モ共ニ黒シトヽヲ又侍ル
始唐土舟ニ此雞ヲ乘セテ来リレニ雄雌ヲ求メ
得テ飼ヒ程ナク子ヲ産ム其雞モ毛形モ皆其父
ト母トニ違フ所アラス其ヒナノ大クナリテ又子ヲ生ム
ニモ毛形モ似タレト其舌ノ色ハ黒カラサリレ程ニアヤ
シト見ルヒ彼シタルカ生ル子ハ其毛似タレ共其形ハ
常ノ雞ノナリテケリ江南ノ橋ハ江北ニ移リテ枳トナル
モ地氣ノ然クレルルニテ我国ノ地氣唐土ニ殊ナルカ
故ニ此雞モ斯ノ其性変レテケリト思ヒヌカリテ常
ノ雞トナレルカ子ヲ生ムテ其子又子ヲ生ムニ其卵ノ
中ヨリ出ルヲ見レハ毛モ形モ似タル而已ナラス其舌
ノ色ノ黒キマテ始唐土ヨリ求メ侍リレニ露タカフ

所アラハ大ニアヤシト思ヒテ此後常ニ試ルニ大体此
疑ニ違フ事ナシト申シキ魏ノ末漢ノ長沙王ノ
墓ヲアバキ盜ノ王ノ六世ノ孫呉淵ノ形ニ似タルヲ見テ
驚キ唐ノ時梁ノ鄭陽王ノ墓ヲ発キテ盜ノ蕭穎
士ヲ見テ王ノ形ニ似タルヲ詰ル彼雞ノ事ヲモ捨ヒ
ヲ其烏骨ナルヤ子ヲ生ミテ其子又其子ヲ産ム
ヿ二三傳ノ後漸々ニ変レタルモ忽ニ又烏骨ナル者ノ
常ノ烏ヨリ生レ出タルハ又子孫ノ精神自祖考ノ精神
集レハ祖考ノ精神来リ至ルノ理アルニ似タリトヽ其変

ハ大ニ違フトイヘ仍法一度変メ所方モナクナリユキ
シヤ数百千載ノ(テ)後之軽ノ名日出未タルヨリ又
初ノ伍法依然トメ顕出セントモ彼烏骨雞ノ話ニ聊モ
タヤハヌフアヤシテレナラハ古ノ軍国ノ時代ノ兵士ト
云ヘルハ今ノ代ノ足軽躰ノ者ナラントト思ヒ侍リヌ

一伍法ニヨラスメ足軽ヲ進退セシハ倚ハ星ナキ秤ヲ以物ノ
軽重ヲ見レトモ均クシテ必シモアタハサルヿ如
来足軽合ヲ試ル人其ロサヲ細ニセシニ心幸ナシ良モ

スレハ伍々ノ今数ニハワルヽヿ多クシテ或一伍ノ四トシ
一伍ノ六トシ又ハ四人ノ一伍トシ三人ノ一伍トナスヤ
如ノ小割リニ今ケテ其一組ノ数ノ多クシ其事サク
細アニスル有リ見ル所ハ如何ニモ手数多クシテ一手
際ナルヤウニ見エレト其本ニ背キナキ志ニ之ノ繁多
ノ所謂星ナキ科ノ謨リニ琢磨ノ加ルニ似タリ且五人
ニ一人ノケイコ有ルヿ前ニ云ヘ如ノ中古コリノ定制シ
小幡北條両子ノ頃ヨリ足軽五人ニ一人ノ警固ト
定ルヿ不易ノ定制トハナリシ也 甲州時代ノ人数組足軽五人ニ一人ノ定

アルヿタシカニ見ル所ナレ本文ノ如ク小幡北條比ヨリ定ル所ニアラス猶不審多キヿナリ
然ルニ五人ノ手数ノ四人三人ノ二人合ケニ分ワケハ
二十五人ニ五人ト定リタルケイコ是ノ如何ニヤカカタン
是等ノ所如何ニ校量アリテ如此今ナルニヤ不審シ
ヿニノアリケル尼頭奉行ハ心ナリ警固ハ四肢ニ足軽ハ
手足ノ十指ノ心ノ動ノ所ノ手足コレニ応ス手足ノ赴ク
所十指コレニ従フ是造化自然ノ妙所ニメ間然スヘキ
所ニアラス然ルニノ如何ニ使ナルヿアリテ其ワザノ巧ニセン
トケニ右ノ指ノ六ツニレ左ノ指ノ四ニレ或左右十指ノ

ナニケ処ノ用ヲ達セントスル事ハ神聖ト云ヘル能ハザル一ニシテ是真源ニ淫リテ真理ヲ究ムルニ非スメハ真道ニ関リ難キニアラス故ニ今之軽ノ起源ヲ推考シテ終リニ此事ヲ以テ斯ニ論スルシ冀クハ後人ノ此理ニ依テ其源ヲ窮ムルトキハ遂ニハ此術ノ妙所ニ至ルヘキ者アサレト予カ論スル所モ亦事機ニサトヤラン人ノ見ル所ニ於テハ頗ニ倆ナル事多カランモ亦免ル可カラス所ナルヘシ

文化十二年乙亥秋七月

鬼谷山人　谷忠明述

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

興津氏家藏書中足軽問答ノ一卷アリ考ノ為斯ニ附ス

問云足軽ノ拵ヲヤウニサマ〳〵有ト聞ヘい其ヲケヤウハ如何　答曰足軽ノ拵ヤウトテ定レルキワヲケアルハ前ニ云如ク八陣ノ図ヲフナルヘシ譬ヘハ足軽ト云モノハ諸兵ノ先ニ進ムモノナルニヨワテ後レ心多シ故ニ第一ハ板等疑ノ生セヌヤウニ其氣ノ奪ヒ能ノ勢ノ合マセテ次ニ地形ノ得失ノ節ヘ知テ駆引ノナサレメサレハ必過ケコレアルヘシ其理ノ察レ下ニハ氣ノ

ツカセ真変ノナスヿ足軽大将ノ第一ニ足軽ハ将棊
ニタトヘナハ歩兵ノ如シ此歩兵ノ使ヒヤウ時ニ應シテ
一概ニ定ムヘカラス只ヨクノ向ノ誤リト怠リアル所ノ知ノ其
油断アル所ヘマキカケタレハ先ノ煩トナリテ敗ヲシ
足軽ノ使フヒ方ヲ也敵ノ怠ト誤アル所ノ察シテ其
虚ニカケテウタレムレハ必大益有此理ノ弁ヘスハ譬
イカヤウノ術ナリトモ皆以使フヿナシ雖然将棊モ
ホタサレ合ハサルトキニ大ヒニ馬ノ立所アリテ我ニ得タル
方ヒノ使ヒ始ハ足軽モ未敵ニ不合前ニ定ル法制アワ
テ悉クコレヲホシ還ノ真法ナクシテ足軽ノ使ハントスルハ
以無日之盤将棊ノ指カ如シ何ソ物ノ合ナサタヤナスカ
シヤ故ニ足軽ノ法ノマツ能ク習ヒ工ヘ然ルニ未セノ人形
ノ〳〵学シテ自在ノナス法ノ不習古今足軽ニ三品
アリ鉄炮ト長柄之三種シコレ何レモ〳〵ノ通具ノ
用ル利ノ辨ヤニ考ヘ知ルヘシ先ノ鉄炮ノ使フ人ハ両
陣相対シテ用ルトキハ何ヤウニウタレメテイカ程ノ損
益アラント真敵ノ愚ニ不為シテ一切ノ変化ノ察シ
鉄炮ノ利アラシトノ考フヘシ只無法我一人進ムト

云に後レ心有テ一旗ハナスト敵押来リテ見ヘハ必ス
逃崩ルヘシ然ルニ思慮モナクシテ去セノ小人ヲヲク右
ニ敵ノ受ルトキハ入形トテ入ノ字ノ表シ左ニ敵ノ受ル
トキハ人形トテ人ノ字ノ表シ安ニ幻形ノ西図ノ実トシ
生死存亡ノ大事ノ執行ハレトス嗚呼真愚ナルヽ
哉レ儒士必如此ノ道具ノ實ニ非ルヽノヽ簡レ見ヒ
ラ長柄モ其用ル形異ナリトノ利益ノ心ハ遠フ
ラス故ニ足軽ノ法ハ三種共ニ同変シテ予カ説ニ依テ其法
ノ用ルトキハ何ノ時トモ其足軽大将一人ノ下知ニ依テ其

組下ノ足軽自在ニ駆引ノナレ真形九ノナレ長ノナ
ルヽ易ノ長ニメ円ニ変レ方ニメ曲ニ変レ其形自在
ノナスヽ飛鳥ノ大虚ニ遊ヒ衆魚ノ水ニ踊ルカ如シ
雖然此法並テ不備メ不可叶真上足軽ハ地下人
ヨリ出テ然モ中ヨリ下ノモノ多レ故ニ多ク義ノ思フ
変薄レ因茲敵合近クレテイブセトキハ後レ心出ヤス
クレテ何ト下知スレモ進ムニヤタレ此故ニ其気ノ察レ
テコレノ使フ変功有ルヘシ辞言ヘアシロノ国前ノ組
ノ如シ竹ノ木一本ニテハ何ノ用ニ立タサレモ紙ノ組合

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

スレハ弱キ竹モ強キ力ヲ得ルガ如ク紙ヲ組合セタリモ
中ニ心ヲ入テ柄ニ用ヒナレハ其力ナレ足軽モ如此
何レノ知義ナキモノナレハ紙ヲ組合セテ一ニナレトモ
小頭大頭ヲ定メ相図符約ヲ備ヘスレハ紙用ノ他力
ニヨワテ能キ武士同前ノハタラキヲナス者シシ則足
軽ヲ可用第一ノ心得ナリ此理ニ依テ左ニ記ス所
ノ組合ノ法ヲ見ヘシ
一五人組ノ事其中ニ一人ハ人ヲ撰テ組頭トス残ル四人
ノ者其頭ヲ頭トナス(キ心得ニ種有之口傳

歩兵　右ノ二
歩兵　右ノ一
香兵　　変口傳有之
歩兵　左ノ一
歩兵　左ノ二
右ハ一文字ノ中以上ノ五人如此左右次ヲ不離而
我ガ先々ノ者ヲ可目掛通也

制法

一五人組ノ中ハ何支有ル共頭ノ可ヘカケヨセ共左右ノハナレス進退スルヿモ共頭次第ニスヘキヿ其五人組堅固ニメ共頭ノ教ヒ功ノナスヿハ共組不残褒美アルヘシ但軽重ハ其功ノ浅深ニヨルヘシ若於背法者伐捨タルヘシ

紅支之圖

香車　右ノ一　右ノ二　左ノ一　左ノ二
歩兵　歩兵　歩兵　歩兵

以上之伍法ノ事五人組ノ頭ヨリ可相傳支

一二十五人ノ事コレハ香車五人計相ヨリ習フノヘシ左右一二ノ法ハ始ノ法ト同シ但此頭合ノ左右ノ間地ハ二間ホト充明ケテ可立之其下ノ四人其間ニ立並フヘシ

一文字ノ法ニテ心得アルヘシ

一二十五人ノ左右ニ立者縮ニテ四方ノ印シヲサスヘシ其組頭ノ教タルヘシ其シルシノ間ハ間ホトアケテ可立之殘ル者ハ何レモ其間ニ充ル心得也委クハ教戦ノ巻ニテ心得アルヘキ法度約束ニ至ルマテ初ノ五人組ノ如ク左右ノ四人中ノ香車ヲ可教事同前也

香車　香車　香車　香車　香車

歩歩歩歩　歩歩歩歩　歩歩歩歩　歩歩歩歩　歩歩歩歩

右ノ二十五人組之ハ足軽大将約束ノ合図有

制法ハ軍制之巻ニ有之

一足軽ノ変化モ何ト同事ニ故寸正変談ノ論ニテ可有之

一敵ニ合フケ上ヨリ突ノ軍法ナリ組ノモ不足ノ我組計忍日々ニカケ出ル銃炮ノ打タレムケハ何時ト真ニ軽半分充打タレム(レ)定法ハ左ヨリ先ニウタスムシ初ニ打タムノ第込ノナレテ火縄ノトルケ人右ノウメシム(レ)

一敵合近ク火縄ノ切テ三充ニ入ノ付サセ二ハ腰ニ矢ム(レ)

一目アテハ馬上ノ子ラハ馬ノ胸ヤヒ勝ヨリ膝須ノ子ラヒテ

打テト下知スベシ

一敵ヨセ来ルベキ地形ノ路ヲヨク糸ベ大道ノ察メアダ大ナヤウニウタスルヿ肝要タルベシ

一打レヤセテ鉄炮迫合アル中今サレモ味方ノ先ヘ繰リ出ス思フ中ハ左右ノレルレサレタルモノニ下知レテ其有ヨリ先ヘクリ出スベシレ下リレキタルモノ一度ニバワト立驚ク中ハ跡勢コレニ驚テ後ロクワレスルモノシ

一何中ニ敵ニ向中ハ味方高キ地ノ取ルヿ肝要シ此時ハ歩行立ノ膝頭ノミノハレムベシ

一敵ハ秋ノ味方ハ廣クナルヤウニ相図ノ中ハ地形ノ中トルベシ但時ト処ニヨルベシ口傳

一敵ノ横大後ロ巻アルベキノ考ヘ知テ敵ノ横ノ打タルル心エアルベシ其外敵ノ虚實強弱ノ心得ノ知ルベシ

右ノ條々ハ足軽大将ノ肝要ノアケテ記スベシ此外ニ迄有度事ハ手明ノ者ナトノ下シコレハ其家中ノ風俗又ハ其頭ノ貧福ト心ヤケニヨワテ可有其品勝手ニ大アルベシ

一問云弓足軽も同前なんヤ　答云然ノ軍ノ法鉄炮弓
長柄騎馬ノ四種ノ結ニ合セテ然大将ヨリ下知ヲ加ヘテ
大々ノ物頭ノ使フ実ノ備トスル軍法不備ニテ鉄炮ハ
鉄炮計リハ長柄ハ長柄騎馬ハ騎馬ト志ノ我々ニ
心得ル因テ何モ其勢弱ノ先手ノ足軽ヲ先ニスルハ後
陣是ニ敗軍スルノ白古コノ先多シ弓ノ大ニ大ニ小
ニトスル軍法ノムスヒアリナレノ事シ未世ノ会議ハ軍
ノ心ノ不知ノ明ヲナリトメ敵ノ愚ニナレ上下ノ心ノ不使
レテ而モ教ノ道モナク已レ奇怪ノ形ノ習ヒ味方ノ白在ニ
使ハレトスル敵足軽五十三十ノ頭スル者モ軍ノ大利ノ悟ニス
我々一ケノ働ニ心ヲ足軽ノ拵ヤウナトヽテコセタルノ手モ
終ニ其法アルノ不悟其上当時ノ弓古トハ用ル心得不
同此理ノ弁ヘサレ弓大将ハ必可有害克可有之者
一問云当時ノ弓古ト不同事如何　答云古ハ鉄炮ナクシテ
弓計シ此ニ敵上手ヨリ此道ノ鍛練シ朝夕手ナレシ故中
リモ細ク拵モ深シ其上敵モ恐ノナレ味方モ情ム心深ク
故ヨク用ヒ足リ其時ノ弓当時ニ違フコレシ以ニ当時ハ鉄
炮故ニ弓白クスタリ鉄炮相ノ其間近ク入鎗合ノ支程シ

去ル能キ大将地形ト時刻ノ察メ鎗合ノ横ノ射サレハ其時刻ニ因テ必ズ為ルベシ雖然ラバ利當時ハ利ナキ種ヽ有一ニハ當時ハ古ヨリ物具ノ札ヨレ二ニハラノ習ワスレ三ニハ敵心ヽ氣サレ四ニハ味方時ハ心薄シ五ニハ用ル時刻大事ニシテサナケレハ左ホトノ弓大将柿シ此失ノ考ヘ用ニシレ

一用テ益有ハ夜討ハ柵越又ハ掛ケ越堀ナト隔タル中或ハ上テ来ル中敵ノ内冒加様ノ心付ニヨワテ真品ニクサトル〻シレ

一組合法度手順逆ヲケ刀ノ手レハ前ノ足軽ト同然ル〻シレ

右ハラノ用可ヘシレノ心得シ其外ハ射手誓古ノ通ニテサレワヽノ小術ハ可有也

一問云長柄之用如何　答云古ハラ長柄騎馬ノ三種ノ組合セテ備ヘタルニヨワテ長柄ヨリ時ノ用ニ立用可賞ナレトモ〻ヘタリ故ニ上古ノ長柄ハ柄モ短ク鎗槍ノ身モヨリ撰ヒ用ヒタリイヤレトナレハ古ハラノ迫合秋テ敵合ヒリナルト長ニテ一且喰トメ其勢ニ来メ騎馬ヲ以拉ケリ

未せハ鉄炮せり合迄ミトナルト騎馬ノ出テ鎗ノ合フ早シ
故ニ長柄ノ用ル心フレクス是ハ只軍中ニ持たる狩義一
篇ノヤウニ心ニルトミヘタリ尤未世ノ長柄ノヤウスハ狩義
一ヘンノ用武士ノ飾リ計ニテ会ク用ヲ有ルヲス如何
シトナラハ先長柄ノモノ足軽共鎗ノ振廻レヤウト
テ年ニ一度ニ習フ変クヤウス持振サヘ知ラヌ中間ノ族重
キヤリノ身モ鈍キフアタケテ出タレハ迚何ノ益有レヤ然ル
人ノ族何モ物ノ貴ナキヤウニ心得テ用ルフ肝要タルヘシ故
ニ良将ハ外思ニ内ノ用アルヲ必外せヽ推迄レノ内ニ用心

アルヘキヿ人ノハ軽レタルヘナリ
一長柄ハ鎗ノ故ニヨク其身ノモ鍛ヒ手軽キヤウニレテ武
士ノ替鎗ニモ用ルヤウニスヘシ
一野合ノ合戦ニハ引受ノ場トスニ長柄ノ用ヒヤウ口傳有ル
一小屋堅メ野陣ニ用ルヿ口傳マリ
一鎗合ノ働ニ得失ノ知ルヿハ軍法勝負ノ位ト地形ノ吳ヘ
知ルヘシ
以上三種ノ足軽ノ道ヨクヽ見分メ組合ノ法ノ有見
レ軍制ノ悟ノ平生ヨリ其人ノ錬リツクル是ハ

切兵道ノ本意タリ次第ニヨツテ悟ルヘシ

忠明按ルニ此書誰レ人ノ記セレトヨフタレヤニ見ル所ナレトトリ一ニ真文辞古簡ニシテ近来ノ人ノ作ル者ニ非ス興津氏蔵書ニ一和流ト記セル兵書多シ思フニ此書モ役流ノ書ニアラン恐ナルヿヲシラス

凡諸家ノ兵書足軽ノ事ヽ如此記ルセンモノナシ其中殊ニ的當セシト覚ユル二條ノ挙テ左ニシテ辨ス

一書中足軽伍法ノ組立ノ條ニ五人ノ内一人ノ頭トノ組立行ルヽ前ニ予ヲ論スル所伍長教其四人ト尉繚子ニ出タルト暗ニ符合シテ伍法ノ古意ノ得タリ

トヤセン按ルニ五人ニ一人騎馬警固士ノ附属ハル
ヿ今一説ノ通法トハナリレモノヤノ真起源ニ泝リ
コレノ考ル件ハ真詮タレヤニ見ル所ナレ前ニ云如ク
甲州時代足軽ニ馬乗ノ士加ヘ侍ルヿコレクタレヤニ五
人ニ一人ノケイコトスルヿ軍盤等ニ見ル所タレヤナラス
侍五十以下ニテ足軽大将トニタリレ由ノヿ見ヘ侍レハ
疑フラクハ彼馬乗トニヘルハ別ニ真手ノ戦ニ用ル者
ノ一職ノヿニヤアラレ前ニ書セレ甲州人数組内足
軽五人ニ一人宛ノ数ニ相當セサリレ者多ク侍レハ

彼ニ付是ニ付疑フ所ナキニレモアラス素行子ノ三等
録ニ足軽五人ノ間ニ馬上一騎宛警固ノ武士ヽ猶馬
上多クハ足軽大将ノ跡ニ乗ルヘレトニタルモ一筋ニ馬
上ハ足軽ノケイコト心得レヨリ真馬上ノ負数真法ニ
相當セザルニアグミテ大ノ幹セレヤ為ニニ出タル説ニ
ヤアラレサクハ古制ノ伍法ノ本トシテ足軽五人ノ内一
人ノ伍長トレテ残ル四人ノ指揮ニヘレト此書ニニタ
ルヿ我ハ佩ニ此書ニ左祖セレモノヤ
又書中當時ノ弓足軽ト不同トイヘル中ニ一ニハ當時ハ

古ヨリ物ノ具ノ札ヨレトモ一ル一諸書見ル一可キ記メ尤其イハレ有ル一ニマ侍ラシ予ノ同藩ノ士人中ニハ旧キ家ノ多ク侍ルヨリ其祖先ナリシ人ノ戦陣ニ着セシモノトテ今家ニト珍藏シ侍ルヲ好ンテ餘多見タリシニ其中十ノ八九ハ皆薄金ニメ矢石ノ防キニ地ニヘウモアラス扨モ怪シサ一ト多年其不審ニサリシニ今此ニイ一ル可キ其意ヲエテ論シタリシニ予ノ見ル所ノ誤ラサルヲ知リメフシニ付コレニ據テ其由来ル可キ考ニ古物具制センニハ只徒ラ射出シ矢ノ其ウワヤ、サルヲ以試シヨキ札トシテ專ニ其作手軽ニ進退ノ自在ナランヲ主トメ制作セシトハ見ヘタレ近来物具制センモノハ皆鉄炮モテ其札ヲ試ル一ニナリシヨリ其制重キヲ不厭ヒタフルニ堅実ヲ意トメ制出セル一一般ノ法トハナリシサレハコノ古代ノ物トテ今ニ残シルモノハ苟ニモ薄金ニシテ當時ノ人心ヲ以思量センニハ其防キニ地ニヘウモアラス覚ヘメルモ其理コレアル一ニマルノ一古ハ實ナリシモ今ノ代ハイフシアニ華ニ流レテ其弊多ヤウシモ其習俗ノ然ラシムル一可ニメ其勢此ニテ

ノ得サリシ事ナレニ獨物具ノ製作ノミ戰爭ノ代ニ
出ルモノハ其製手輕ニシテ治世ノ時ニ至テ製出セルモ
ノ、却テ堅實ナルモ尤怪ム可キノ一大奇事トヤセン
時世ノ變革ニヨリテ其用ル所一樣ナラス
古ハ戰爭ニ多ク長器トセシモ近世ハ鉄炮用ヲ以
大ナリトス又古ハ士卒ノ者多クハ毋呂ヲナタリシニ近
世ハ一般ニ指物ト替ハリ又古ハ兵士騎戰ナリシ
ヲ近世ハ皆下リ立テ鎗ノ勝負ヒ又古ハ長柄トスル者
ナヤリシニ近世火ニ行レテ軍列ノ其一隊トハナリ
シナリ是等ハ其變革ノ大ナルモノ〻其細事ハ其ニ
至テハ數ルニ遑アラサルヘシ
サテハ物具ノ製作ノ古製ニ違ヒシモ又怪ムヘキニアラ
スハ今ノ世ニ生レ出テ物具製出センニハ近代ノ法ニヨリ
テ製センコフイトタレヤニ便ナルヿトマセンサレト物
ニノ全キヿナク茲ニ便ナルハアレコニ便ナラサルヿノ
侍ルハ人事ノ常トスル所ニシテ其利偏廢ハ一キヿニ
アラス長近ノ押前數刻ノ決戰等ノ節ニ至ナ人
人疲勞甚シヤウニ近世ノ重鎧着セシハ其力ニ

堪ユレ覚ヘズ茲ニ付テ一ツノ古戦物語リノ侍レ
上杉家ノ士青木新兵衛真トヲルハ其身大兵ニシテ
力量モ普通ニ超ヘタリシ者ナレニ常ニ薄鉄ノ鎧手
軽ナル刀槍ヲ好ミタリシフ人ミ青木ヲ大兵ニモ不
似合振廻ト怪ミ思ヒケルニ桑川表退口ノ戦ハ長
進数刻ノ戦争ニメ上杉ノ兵士悉ク疲労シテ進退
窮リケル中ニ獨青木ハ勇氣不撓進退自在ニ
シテ大功ヲ顕シケルニソ人ミ常ノ心掟ケヲ始テサト
リテ感シケルトヲシ是等ヲ以見ルトハイヤニ札

能キ鎧ナリに其力量ニ堪ヘタラシハ大事ノ場ニ臨テ
其用フカノ一キ一イヤニヤアル一キ古製ノ物具手
ナルナラシハ是等ノハタラキヲ心ニコメテ製出セシモノ
ニヤサレト又重鎧モテ其功ヲ立タル一ノ侍リキ大
坂ノ坂口池田家ノ持場ニ真家士河田八介ト熊毛
ノ重鎧着テ鉄ノ楯三枚服ソサミ引トル処ヲ城ヨリ
放ス所ノ十匁玉ノ鉄炮ニハ今打スヘラレタレト重
鎧ノ札ヨヤリシニ其ノ疵付ノ一ナリメ又立上リ我
陣ヘ引トリシトヲ一見ヘタレ、コレラハ重鎧着タリシ

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

徳トヤセン其利用重キ利有ノミ有又乾キニ利アルヽ
テ一ヤウニ論スヘキニアラス一得一損其時處ノ宜キニ
從フヘキニヤサフハ古今ノ利用其異同ノ論センヽハ
姑ク閣キテ只我カノ仏ニ堪ンヲ以製作有レソ古今
不易ノ製ルヽヘキニヤ此一條足軽ノ業ノ中ニヲ出シ
テ不用ニ侍レト本文ノヲ所ニ就テ手ヲ常ニ思フ所ノ
茲ニ書ス侍リメ見ル者怪ムヽナカルヘシ

又此書ニ長柄ノ以ヲ炮ト同ク足軽ノ業ノ一職トナ
シ侍ルヽ諸書ニミル所ナキ説ニメ其意味尤深キヽ
ニヤ有レ凡長柄トヲ云ルモノ其申未スルヽ久シヤラス
室町家ノ末ヨリ行ハレ来リテ就中織田家ノ軍立
コノ長柄ノ用ルヽヲ仕得テニテ数度其功ノ立テ
タリシヨリ天下一般ニ其功用ノ大ナルヲ覚ヘテ戰陣
ノ一隊トハナリテケリ今兵家者流ニ教ル所長柄ノ
法センモノ足軽ヨリ其ハ一等ノ減シテ全ク中間ト
有ノワザト成シメ侍ルヽ如何ン成ニヤ有ケン予若

ナリシ比長柄多ソ所藏シ侍リケル人ノ許ニテ内身ヘタラキテ試ミタリシニ其業イアニモ習有ル如ク覺ヘテ其術ニ堪ヘサル者ノ容易ニ真働キナスヘシトハ思ハス侍ラス増テヤ平日取モナラハヌ中間小者ノ業ニ真一隊ノ受トリテ然モ弓炮ト士トノ間ニ備ヘシメンハ徒ニ士ノ鎗入ン妨トナルノミニメイカテヤ其功クナスヿ有ヘキサレハ此書ニ弓炮ト一同足軽ノ業ト定テ其隊ノ今テルヿヨリ其実事ノ求テ云ヘル一説トヤスヘシサレハ此書ニ云ヘル如クコレク足軽ノ一職ト定メラキテ平日其業ノ訓練セシメハ足

其業ノ訓練セシメハ足軽合其間フマリヘル場ノ受取テ戰士鎗前ノ口切ノ大用ノ達セシメンヿ大ニ其利用有トヤセン小篠其ヲ原左エ門藝列ノ浪人ヲ術ノ鍛練セルヲ以今扶持ノ三分ノ此者ニ在仕ル詔ナリトテ藤田子定ヲ次郎左ニ門ニ正丈館紙藏ノ郭ハ詔リシハ藝列家ニテハ長柄ノ職足軽ヨリ上士ノ下ノ格式ノ者コレク役ストヤヽコレモ軍列ノ差別ノ以コレク次第セシニハ長柄ノ足軽ヨリ上ノ職ノ役ト定ルモ其イハレアリトヤセン是モ書ニ云ヘル所ト符合メルニ似タレハ考ノ為茲ニ記シヌ

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

足輕起源附録足輕配下

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

足輕起源附錄足輕配

足輕二十五人大連ノ圖

二十五人

足輕ハ何ヒと一歩
人横以下准之

十五人

法場門立門或七間

十人

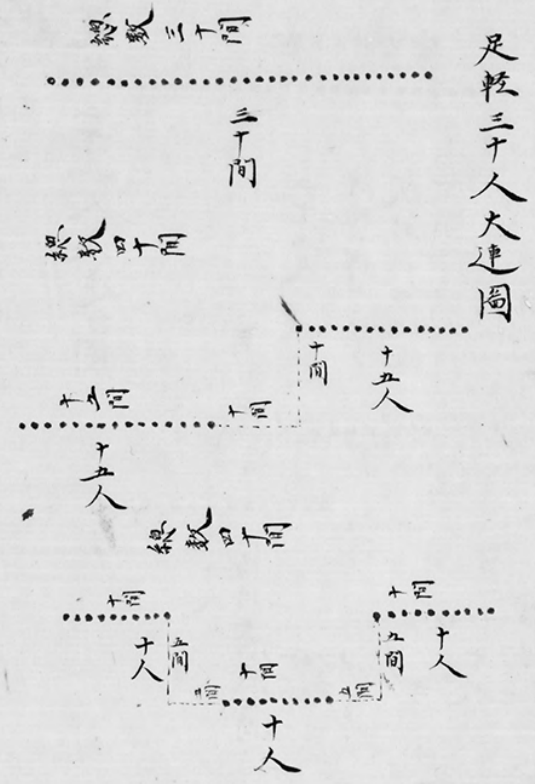
34891

朱書

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

朱書

足軽三十人大連圖



兵学啓蒙云大連トハ足軽五十百備ルニ足ラ用ユ
大連トハ大足軽ノ用ルノ法ニ五十百ノ足軽ノ用ル
ニ小連ニハフナラントセハ並ヒ十二十モ横ヘ廣ク場ノ広
ナ地形ノヲイクタクナル如クニメ大用ノ足スニハナレ難シ
縱ハ黄金十両ノ白銀少レノ用ニ遣ハレトモ黄
金其マヽニハ用ヒカタク何レモ其用ノ足ラレ為ナレ
ト用ルヿ其業ニアタラサレハ大ハホノヤナヘスホハ
本ヨリ大ニワヤハレス備ノ令ルニヨレトモハ百人ノ馬
上ノ一人ノヽ百ニ令ル如ク令アウトヲ法ノ不知ア故ニ令ナ

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

敗クトル是ヲ以其法ヲ用ヒヤ（五人並フル足軽ヲ十人
並一十人並フルヲ十五人ヒ並ヲ前後左右ノ間其人数
ニ應メ用ルヤニハ地形モ場ヲトクス手合モクメ〳〵ナラス
レテ用ニ於テモ其得宜レコレヲ大連トヨ又ヨ小連ノ様
子其断リヲ知ルヤハ五十百ヲ一重ニ並ヘテモ二重ニ並ヘ
テモ其理ニ不應ヿ更ニナレ故ニコレヲ大連トヨ委細
其口傳ヲ受リヘシ又足軽ヤヤハ手数アマタニ地形ノ
ラリヲ取テ人数ノヤサヲ敵ニ示ス是小連ノ本意ナ
リ足軽大勢ナレハ二ツヲ一ツニ合セ組テ大軍ノ如ク
ニ見セス手数ヲハ勢ノ如クメ敵ノ氣ヲ怠クレムルコレ
大ツヲノ本意ニ此理ニ通スレハ馬上五十百千ノ備ヲ
用ルモ同意也ハ連ノ数多キトヨハ五人ノ一組ヲ十人
ニモ二十人ニモレテ敵ヲモ連ルヲヨ又ハ連ヲ以大連ヲ
ナストハ小連ノ形ヲ押出メ一トツヲニ長クスルヲヨ
兵法神武雄備集ニヨリ同シ

忠明按ルニ大連ノ法一組二十三十五十百ナリモ只
一列ニ連ル者ト心得ル者多シ本文ノ意ヲ自得セハ
其意味明ナナルヘシ元来小連モ大連モ同一法

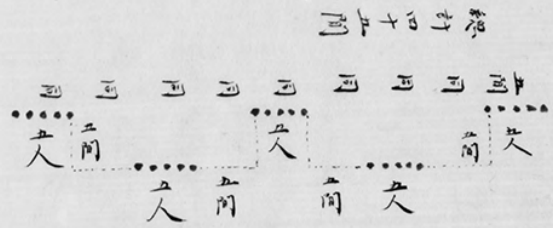
東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

ニシテ陰陽奇正ノ持ノ其心得ハ一ナレ只大連
ノ本意トスル所ハ本書ニ云如ク五人ヲ連ル一キノ
十人モ十五人モ連リテ陰陽ノ分ワケハ其地形ノ
トル所ニ大ニ其得アルヘキ事ノ所ノ自得スルヤ
ハタトヘ五十人ノ足軽ノ二十五人充二ツニ分ルモ十
人ヲ五ツニ分ルモ五人ヲ十ニ分ルモ其地形ニ処シ
テ其用異ナルヿニシテ其理ニ替ル事ハナキ小連
小連ト名目分テルノ本意ヲ以論セントナラハ一列ノ
足軽ノ大ツラナルト小連ナルトノ差別ヲ以テ出シタ
ル名ナル事明ラケシ是等ノ心得ヲ能ク自得メ後ハ
一組ノ足軽只一行ニナシテ用ルモ可ナルヘシト大連
ノ本意ハ只一行トノミ心得ル時ハ其源ニ達フノ罪免
レヘカラス後人其形ニ泥ミテ其用ヲ失フ変ナカルヘシ

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

朱書

小連配之圖



兵学啓蒙ニ云如何程ニ如此備ヘ也間横立
様ニ右傳如右五人宛立ル ワ連トスル一間ニ一
人五人ノ間ニ警固ノ武士一人宛ヲ入ルヘシ足
軽ニ先立不可陰陽奇正ヲ持テ楽ニ入番
ノ間ヲ全クスヘシ教戦當戦心得可有也
註ニハワラトヲハサ拂ニテモ不危如ク備
先ニ立ル足軽ノ法ヒ其作法五人ヲ一組トシ
鉄炮ヲ鉄炮ト一車ニ横ニ立ル也
サテ其後ニ同心一騎差續テ備ヘ右五人

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

ノ足軽ノ差引下知致ス大ヨリ左ノ方ニ又五人ノ足軽一人ノ
同心有コレハ五歩六歩ヲレサリテ跡ニ備ヘシ作法如右十ヲ
二十五人三十人ノ足軽ノハ何レモ如此一二三ト次第ヨリ立ル
ハ前後ノ足軽有ヲ立ニ先足軽一重左右ニ敵ヲ打フ
其時ニ敵ヲ〻シ来ラントセハ二番ノ足軽居リレヤタル備ヘ
ニテ鉄砲ノ射放サレトモ其内ニ先足軽ハ藥込レテ又敵
ヲウフ如此ニ用ユレハ敵急ニ付クヲナラス足軽モ二三度
ニテハ打タルヽ也如此得アルヲ故ニ前後五人ヲ五ルヲ小
連トスシ五前ニ扣タル足軽ノ間五歩六歩ヲ隔テ備ル

トスル一ニ敵合近キヲハ急ニ足軽ノ拵レトモ先ニ備ヘタル
小連ノ足軽ヽ跡ヨリ放ス所ノ矢ニ中ルヲアルヽシ去程ニ先
足軽ノ打拂タル中ハ跡ノ足軽先ヽ四五歩モ進出テ敵
ヲウフヽレサテ二ノ足軽ハ藥込終テナフト本ノ所ヽ引退
ス如クセハ始終共危キヲ更ニナレコレハ連ノ法ニ宜シト
ヲリ然リトイヘトモ如此進退セレトセハ兵ヲ乱ルヽシ況
雑人足軽ノ類弱キハ退キ一足モ先ヽ進ムヲナヤンシ
故ニ一連ニ拵フヲナシ是一ツ足軽進放サレトモ
ハ備ウル故ニ敵ニ図ヲ得ラルヽヲアルヽシ是ニヲ

又跡ヨリスヽメテ出レタル足軽用終テ又本坐ニ引ケ
サント一同ニ引立ル可ヽ敵急ニ付ハ危シ是三ツ然レ
ハトテ不退ニヒケスク繰リヤルヤハ長柄ノ間遠ノナル
ヽシ遠ク敵サント長柄武者ニ二統テクリヤヽクハ愈
備深クヽレ如此ノ損有ヤ故ニ先足軽ノ跡ヲ心元ク
思ハサルホトニ備ノレヤヲ積リテ小連ニ致シ足軽ヲ不
動用ル丁本説シ又ミ小連トミハ備先ノ足軽ニ計不
限何レノ足軽ナリトモ此心持ヲ用ユヽレ様ヨハ替レ
真理ニ於テハ無二無三ノ所也敵戦當戦トミハ定法ノ

如ノ間敵ノ定テ合戦ヲルノ敵戦トミ時ニ取テ下知ヲル
ノ當戦トハミシ兵法神武雄備集ニ説ノ所モコレニ同シ
又神兵要略ニミ之左ニコレヲ記ス
足軽小連鉄炮為打ヤウハ前十五人ニテ敵ヲ押ヽ居テ
後十人ノ足軽ヨリ敵ヽ銭炮ヲ放レヤケ玉込ヲスルヲ大
マテハ前ノ足軽ハ鉄炮ヲ不打ニ居ルノ後ロノ足軽薬
込ノ後ニ前ノ足軽一同ニ打拂テ玉込ヲスルヲ右玉込
終ルニテハ後ロノ足軽ハ一同ニ不打ニ居テ前ノ足軽ノ
薬込終ノ後又後ロヨリウケ撃ルノ如此幾回ウツモ

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

同レフシトキ

又立齊翁布施氏ヨリ口授雄鑑抄閉書ニ所ニ左ニ記之

小連ノ筒ノ畫ノ打拂トニフハナレ替ルく藥込レテ合図

ニテ打フシトニフシ　其意要略ニヨト粗相似タリ

思明按ルニ右両説ノ以テ見ルトキハ雄備抄啓蒙

等ニ説ク所ハ先足転一重左右共敵ノ打テ其内ニ

敵スヽミ来ラントセハ其内ニ先足転ハ藥込ノ又敵ノ

ウツ如此用ニレハ敵急ニ付クナラス足転モ二三度

ニテ打タルヽニ得アリト見ヘタレハ此説ニテハ先一重ノ

足転計幾回モ銃炮ウツ後ニメ跡一重ノ足転ハイツモ

押ルル役ト成リテ一組ノ足転鉄炮ウツモノト押ルルモノ

トニツニ分ケル術シ又要略ニ云所ハ初ハ跡ヨリウケ先押ヘ

其次ハ先ヨリ打テ跡ニテ押ルル如ク幾回モ前後替ルカ

ハル打放ス如クノ法シ啓蒙ノ説ノ如ク初一側ハヤリヨ

リ打タスルヿ敵間五間ノ近ク有テ其得報前ヤリ

トイヘハ前ハ打テ跡ハ押ルル計ノ役ト限ルヿナシ穂

アナラサルニ似タリ要略ニ云如ク前後更ルヽ押ルル事

術環自在ニレテ一組ノ足転其御ニハラヒク其利便

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

捷ナルヽレヤ尚足軽大将ノ二大功者ニヨリテ両様ノ
内真特直ニ應レ緩急ニ從テ用ルヽヤハ二ツナキ
真利大ナルヽキフニヤアラン
又按ルニ小連打トヽハ跡ヨリ段々ニクリ拔リ進ミ打ツ
者ト心得ル者多シ元来小連トヽハ一名月ハ大連ノ
除ニ辨スル如ク一列ノ足軽小人数ナルヨリ出ル名
ニシテ立人一列ノ足軽図ノ如ク陰陽ノ分ナキイク
列ニ並ヽタルコレヲ小連ノ形トハスルヽナリサラハ真
形ノ真ニミニ先ハ打テ跡ハ押ヽ確倚集啓蒙既 或ハ前後
打ヲヽ〳〵真坐ノ不去メ迫合ノヽ是小連打ノ本法
トヽモノヽナリ真迫合ノ間敵崩レハキノ機ノ見横
リテ足軽ノ下知シ跡ヨリ段ミクリヤリ打タヽル是
小連打ノ一変法ニノコレヲ小連クリヤリ打トヽナリ
此クリヤリ打様委細未ノ條ニ出ス 世人是等ノ所ノ混雑シ覚ヽ来リテ
小連トサヽヽヽハイフヽ繰リヤヽル者シト心得ルハ
大ニ誤リナルヽシ
本藩内試ニ小連ノ同心初前列計ニテ以上三度々
テ打ヲヽ〳〵ウタヽレハ是小フラ打ノ本法ノ教ヽル者

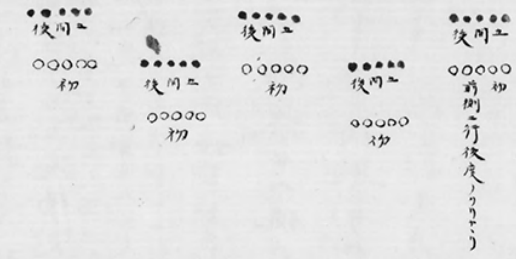
シサテ又前ノ同心三度打終テ玉込スルハ後列ノ
同心一同ニ打放シ玉込メ又先ヘ進ムハコレホ連クリ
ヤリノ法ク教ヘタル者シ此内試ノ一行ハレテヨリ
人々備ノ事自ラ精クナリテホ連打内ヤウノ差別ク
モ分ルヿ多キモ是全ク内試ノ功然ラレハ一ツニシ
テ治ニ亂ク不忘ト云教ニモ叶ヒテ仰キ貴フ人
ニコフアレ
又梅ハ二足軽伍々ノ間ノ間数ト陰陽食違トノ間数
図ノ如ク何レモ五間ヲ真間ク明ルヿ古ヨリ教ヘ来ル
法シ他流ニテハ足軽ノ間伍々ノ間キク三間ニシテ
食ケヤヘク五間ニシテモヨシト云リサモ有ヘキヿナレ
ハ内試等ク以實地ク試ミヌルニ伍々ノ間三間ニテ
前後ノ違ヒ五間ニノハ跡ヨリ放ス所ノ玉先ニ立タ
ル足軽ノ心ヲヤヘナキニシモアラス間先ノ子ラヒサク
触ルヽ時ハ其間五間ク隔テヽハ其玉ノ大ニ違
フモノナレハ前ニ立タル足軽ノ為高金ノ道ニ云カ
タヤウニヤサラハ三間ニ五間ト云タルヿ会キ曲人
ニ云ヘヤウク又前ニモ云ヘル如ク関キモ下リモ五間

ナラハ其斜ミ曲尺ノ句配ノ度ニノ不易ノ曲尺ニ云ヘキ者ナリ此心得ノ失ハスタトヘハ伍々ノ間三間ナラハ前後ノ違モ三間ニ詰ルトキハ五間ニ五間ト同シ法ニテ曲尺ノ句倍ニハワルハ一ナレ是等ノ積リ足軽大将ノ校量肝要ノ義ナルヘシ（雄鑑抄閉言ニモ教戦トヲハ五間ヲ五間ノ傳ヲヲ當戦トヲハ三間ニシテモ宜キナリトヲシ）

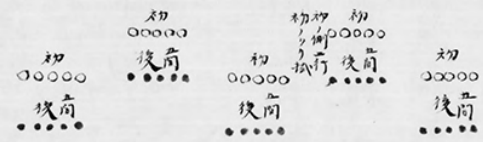
又按ルニ足軽合ノ一其術数ヽ有之トヲ一ニ其本トナル所ハ小連大連ノ二ヲヨリ出ストヲ一ナレ未ニ出セル教條ノ立ヤウ千緒万端ナリトヲ一ニ其源ヲ論スル時ハ小連大連ノ変態ヨリ現出セル者ニシテ所謂乾坤ノ二卦ヨリ出テハ卦ヲナシ（震ハ乾ノ長男トス初爻陽爻坎ノ中男トス二爻陽爻艮ノ末男トス三爻陽爻ニ此二卦ハ乾ノ三爻ノ内ノ一爻ヲ分チテ解ノナレタルニ又巽ノ坤ノ長女トス初爻陰ニ離ノ中女トス二爻陰ニ兌ノ末女トス三爻陰ニ此三卦ハ坤ノ八卦ヨリ出テ六十三爻ノ内ノ一爻ヲ分チテ解ノナセレナリ）四卦ヲナスト如レ小連大連ハ足軽配ノ父母ト心得テ其術ヲ鍛練セハ他ノ術ハ其指揮ヲノヲヲ心ノ如クナル（キニヲ猶委クハ口傳ヲ以其意ヲ得ヘキモノ也

朱書

伍々足軽繰懸図



伍々足軽繰引図



雄備集并啓蒙云足軽ノクリヤトリトヲハ拭ル中ハ五人充備タル所ハ小連ノ如クレテ跡ヨリ鉄炮ク打拂テ薬込クスルマテハ先ノ五人ハ弓鉄炮ニテ堅ルテ前ノ如シ其中又跡ヨリ打テ出ルテ彎ノ如シ繰リ引トヲハ先ヨリ打拂テ売筒ノ持ノ跡ヘ五間退キ薬込クスル中前ノ五人ハ堅メ居テ薬込終テ彎ノ如ク打拂ヤラ鉄炮ノ持テ退キ薬込スル間前ノ五人堅メ居テ薬込終テ引クテ彎ノ如シ如斯幾回モスルシ繰ヤリハ跡ヨリ打クリ引ハ先ヨリ打拂ト心得ヘレイワマテ堅メタル計ニテ放ス

ヤラス敵真間ニ掛リ来ル丁アラハ弓ヲ放ソヘシコレ繰掛リトスヘシトスヘシ

雄鑑抄閉書ニ掛ル片ハ跡ヨリ打テ玉込終テ先ヘ出段々ニ跡ヨリ打ツヘシ又引ケハ先ヨリ打テ玉薬込テ引テ押ニテ又段々ニ先ヨリ打ツヘシトスヘシ

要略ニクリ掛リクリ引トスハ小ツラノ足軽ニテ進退スルヲ繰掛リハ二十五人ニテ引ハ後ロノ足軽ヨリ敵ヘ鉄炮ヲ打アケテ薬込クスル間ハ前ノ足軽ハ鉄炮ヲ不放敵ヲ押ヘ堅メ居テ後ヨリ足軽玉込終テ前ノ足軽ヲ

行キコス事五間ヲ進テ敵ヲ押ヘ取堅メル片ニ又始ニ敵ヲ押ヘ居タル足軽跡ヨリ鉄炮ヲ打薬込クレ進ムヿ如前段々ニイク度モ如此スルヘシ繰引ハ前ノ足軽ヨリ銭炮ヲ打テ売筒ヲ持テ跡ヘ五間退キ薬込クスル片前ノ足軽ハ敵ヲ押ヘカタメ居テ跡ノ足軽玉込終テ後嚮ノ如ク打拂テ又売筒ヲ持テ五間退キ薬込スル間ハ前ノ足軽堅メ居テ跡ノ玉込終テ又打拂テ引退リ始ノ如シ幾回モ如此スルヘシ繰掛リハ跡ヨリ打拂ヒクリ引ハ前ヨリ打トヘシ

一足軽ニ鉄炮ウタスル丁掛ル片ハ跡ヨリ引クリ片ハ前ヨリ打タスル

事古ヨリノ通法ニシテ諸家ノ論一様ナラス或人ノ論ニハ後列ヨリ打タル丶者スク〳〵敵間五間ノ損ヲシハ掛ル件迄ニ先列ヨリ打タルニ利有トヲ丶又一家ノ説ニ論ル所ハ九利十ナラサレハ其法ヲ立ストヲ(ハ)古ヨリ定メタヤシレ通法何レヲヤ聊ノ利害ヲ以テ変革スヘキヤアル且後列ノ足軽跡ヨリクリヤリ先列ノ足軽ヲ行コスヿ五間サル件ハ始ノ立場ヨリハ其通法十間也死生目前ノ物前ニテ十間ノ通ヲ詰メヨセ居リシキナヤク鉄炮打放サレハ其ツメ合ノ間ノ息合ハ納ラサル内ニ居リシヤ否アハテヽ打放スル件ハ其日アテノ子クヒタレアナラサルヘシ是ヲ五間遠近ノ損得ニ比スレハ其害却テ大サヿ〳〵シトヲシ

其論ニフナヤク其理害ノ當否サモ有之ヿニ侍レト是ヲハ尺一事ノ業ノ上ニテノ損得ヲ論ル所ニメ足軽合ノ大意ニ通シタル論ニヲ(ヤ)クスサクハ本意ニ泝リテ是ヲ論セシトナクハ兵法ニ九地トイ(ル)月ヲ出シタリソレトハ一軍ノ兵七合其戦地ノ損様ニヨリテ勇ニナリ怯ニナル(ヘキ)ヿハ其将タル者ノ権謀ニ就テ片ツク(ヘキ)ヿヲ専

ニ論レタル至極ノ論也（此九地トヲハ実ハ地ノ字ハ仮リモノニシタルニテ強テ其ニ地ノ利害ヲ以論スルヿニアラス其時其場ニ処レテ人心ノ剛愎怒隔ナルヿヲ論レタル肝要ノ術ナリ）凡二段ノ足軽ノ内鉄炮打ツキ足軽ハ眼前ニ敵ト相対シ其敵ヲウツ事我打タルヽヲ二ツノ境ニ処テ進退共ニ極ルヿ必然ノ勢アル地ニ處スル故コレ九地ノ所謂重地ノ位ニシテ（重地トハ人ノ地ニ入ルヿ深ク士卒ノ心專ラナル処ヲ云其利ハ則掠ノ其術ハ可絶其食トアリ）足軽等既ニ内顧ノ念モ全キ呉テ只此敵ヲ破リ功ヲ立ル事ヲノミ心トシ他念ナキ所コレ重地ノ位ニ又鉄炮打ツヿナク押ルヿノミ事トスル足軽ハ其勢自次戦ノ意ニ薄キヲ故矢玉シテ

キ場ニ處メハ後レ心付キ易ク良モスレハ瓦解土崩ノ心ヲ生スル地ハ九地ノ所謂散地ノ位トヲモヘシ（散地ハ諸侯或領内ニテ戦フヲ如ク）ナルヲ云其利ハ戦フ変ナリ其術ハ其心ヲ一ニスレサテ此散地ヲ変シテ重地トスルニ其術アリコレ九変ノ術ノ妙用ニシテソレトハ右ノ如ク後レ心ヲキタル足軽ヲ重地ノ勢アル足軽ヨリ先ヘ出メ備ヘレハ其ハ敵ヨリ来ル所ノ矢玉ノ患有後ロニハ味方ヨリ放フ処ノ矢玉ノ畏レアレハ進退此ニ窮リテ只敵味方ノ互ニ射出シ打出ス矢玉ノ中間ニヤヽマリ居テ一ト向キニ敵ノ付入ヲ押ヘシフノミ心トスルノ勢ニ至ル

必然ノ理ニナ散地変メ重地トナリタル所ニメ九変ノ術ノ秘訣シサレハ古ヨリ拙ンけハ跡ヨリト教ヘタル本意此理ヨリ出タル丁明クケレ是等クステ見ルけハクリヤ〜リノ節後列ヨウリウタスル丁治定ノ丁トヤニハンサレト地墨狭クテ位々ノ陰陽ノ間法ノ如クナル丁アメハスレテ後列ヨリ打出スアメハサルけハ前列ヨリ打タセテクリヤン丁尤ノ丁ナレトコレハ時處位ニ応メノ変法ナレハ不易ノ教トスルニ非ストカク教トスル所ハ不易ノ定法クリ〜教ル丁ニレテ其特ニ臨レテノ変法ハ其官長ノ策略ニ出ル所ニメ皆戦ノ習肝要ノ事ナリト知ル〜キニヤ山庫素行子武教三等錄ニ云所左ニコレヲ記ス

警固ノ組頭足軽ヨリ先ヘ出タル人ハ足軽必崩レ易レ足軽ノ先ニ立テ下知ノ致レ足軽ノ扣キ立テ勝負セシム〜レ足軽ノ垣ハ警固ノ武士ト心得〜キ丁シトニ〜此説クステモ足軽ノ敵リ安キク知ル〜レ

又旗本備ニテ弓組計ニテ位々ノ組ノ備〜ル心得ハ鉄炮足軽トハ事替リ二段ノ足軽ナクハ前列ヨリ射

放スニ利アルヿしらハ鉄炮トハチアヒテ其間数五間ノ
遠アレハ其矢業ノ強弱大ニ違フモノナレハ鐵炮組ノ
心得ヲ以テ論スレハ二ニ非ス三等録ニらハ堅物ヲ通ス
ヿハ古来ヨリ十三間ノ内ト定ルトヽヿモアレハ其利
用考アルヿキヿし大方ら組計ノ勝負ニハ繰リヤウ
ナヤウ射放ストヽヿハナキヿし其前ニ備タル鉄炮組
ガナヤウリヤウニガツキテら組モ其路ヲ踏ツメ
らハ射放フヿナクレテ堅メ居リ鉄炮迫リ合迫リ
ナリテ互ツキモナリヤタキ付ヲ受トツテ敵ノ付入

所ノ防矢ヲ射長柄ノ未ラントスルヲ射レクマスヿ是ら
組ノ勝負肝要ノ場シ多リハらハ防矢ノ付ノ用到テ大
ナルモノニテ堅ク破ルハ鉄炮ノ役我ヲ全メ防ノヿキヿ
らノ役ヿト心得ルヿハ其用違ヿナキモし又ら組合タ
ル先手ノらハ鉄炮迫合ノ間ハ射放スヿナクレテ
玉込ノ間付入ノ陽ヲ心ヤクルヿヲ要トスルし鉄炮ハ一
町内外ノ迫合ニ引立クル狙リニ射放スヿハ延ニ矢
数ヲ費ハノミニテ其用更ニナシサレトモ已ニ鉄炮迫合
ノヿニ至テハ人心各アセキナらモ一同ニ射放サル事

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

ノ心トスルヿ必然ノ勢ナレハ此処ラ大将ノ制布尤
ノヿシ三等鍬啓蒙等ニモ此意ノ説キタリ左ニ出ス
一三等鍬ニ鉄炮ノ用ル場ヨリ弓ノ放ケヲハ如何ナレハ
鉄炮ノ用終ヲ敵合近クナリテ弓ノ一度ニ用ヒテ射ル
ニ利アリ是両種到用ノ利シ鉄炮ハ薬ノ込ムニ手間
ノトル故ニ其打拂ノ鈴レ忽合ヲ考敵一度ニフムル者
ナレハ其ヰ弓之転矢次早ニ矢ノ射込テ敵氣ノ奪
フヿレ堅物ノ抜ノヿハ右未ヨリ十三間ノ内ト定タレモ
矢種ノ不惜下リレキ矢数ノ射出ス所ハ四五十間ノ内ハ
入カタキ者シトニシ
啓蒙云雄飛集曰鉄炮ハ薬ノ込ミ玉ノフムニ手間ノトルヿ
有火ノ付ケコレノ用ルニ至テハ五町三町ノ間ニメコレニ中
ル者必拙ノ弓ハ矢ノ次ノヿ速ヤシトイヘ三十間ノコ
レ一町ノスキテハ矢勢ヨハレ鉄炮ハ遠キヲ打ワノ得
ルモ玉薬ニ手間トルノ損アリ弓ハ矢ノ次ノヿ早ク得
アレモ遠キ敵ノ拂ハレス其損得何レモナキニアラス
良将ハ其得ノ取テ用ル故ニ損ノ有ナレ弓ハ矢ノ
次ノヿ早ノ近キニ用ルノ得ノ知ルヲ以テ敵モレ鉄炮

ノ薬込ノ間ニ急ニ成入ラレトエル時コレヲ射レラマサレ為ニ用ユ鉄炮ハ敵ノヤウスヲ見透シテ居レトイヘトモコレヲ打拂ノ所ニコレヲ用ユ是ヲ以鉄炮三挺ニハ弓二張加ハヘテ用ヒハ二十五人ノ足軽ニハ八人ノ弓ヲ加ヘテ用ユ敵合迫ノナクトモ鉄炮ヲ打ハラヒタラハ弓ヲ以テコレヲ堅メ薬ヲ込セ玉ヲツメサセテ又鉄炮ヲ用ヒレムルトキハ是等皆鉄炮迫合ノ間ハ弓ハ放ササルヿ明證也

又當代鉄炮ノ上手世間ニ感シナレハ用ヲ足スヿモタレコレヲ以テ考ルニ中ハ鉄炮五挺ノ内弓一張ヲ加ヘテ可ナリトモ是等ハ繰引繰捻ノ論ニハ不用ノナレトモ利用古今ノ違有ヲ論スルニ考ノ為茲ニ記レス

按ルニ足軽ノ引ノリヤウトモニ二列ハ打テ一列ハ押ヘルヿ其意味ヤハラヿナレトイヘトモ其中ノ掛リハ大事ノ敵ヘ押ツムルヲ以テ主トスレハ其列ノトヽノヘ如何ニモ厳整ニ作法正シクヽト子リ入ルヲ以テ習トス繰引ハ敵合タル敵合ヲ引放スヲ以テ主トスレハ其ワサヲ軽ク手早ニサツト引放スヲ以テ本意トスヘシコレ按ルトキ引ノトニ

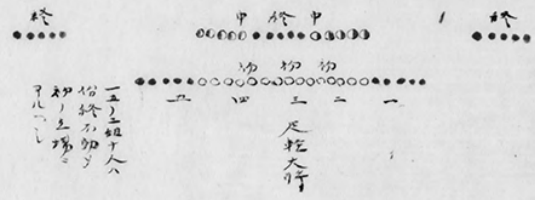
朱書

就テ其用捨大事ノ習アルニテ足軽大将タル者此処深ク體認アル事ニコフアル

啓蒙為主ノ筋ヲリ引ノ条ニ引ル備スルキハアレヽサウト早ク引ク可レトニヽコレ引ルヰノ心得ノ事要ト知ル

（キ）也

大連ヨリ小連ニ直スノ圖



右ハ雄鑑口授ノ図コレヲ写ス

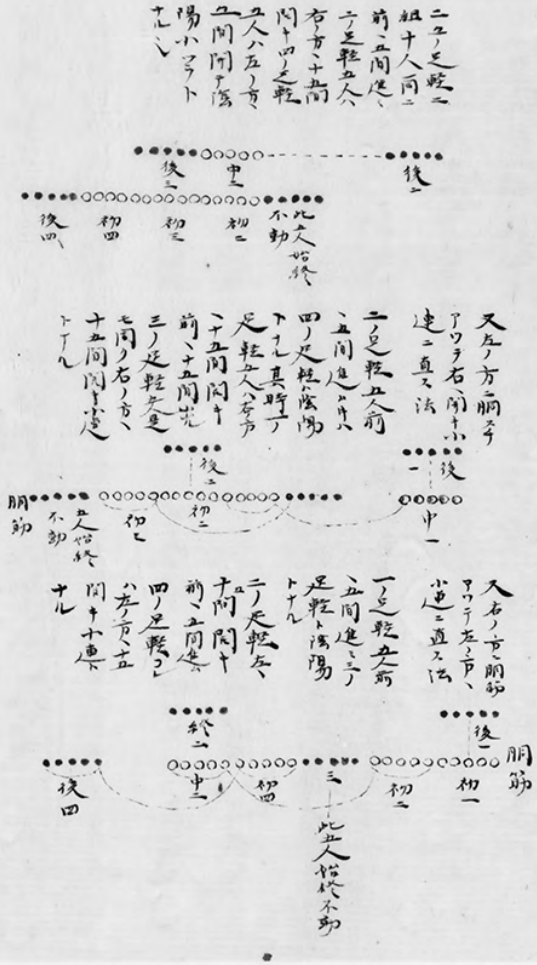
其書ニ云大将未幣ヲ取テ見ル人ハ其ノ組ノ足軽行テ備ル人大将左ノ方ヨリ廻リ来レレ射向ヲ人ヲ要略ニ小連ノ立ヤウハ先ヲ面ニ立タル二十五人ノ足軽ノ小ツヲニ立ルヰハ直中ノ五人ノ足軽ノ左右十人ノ足軽五間進テ左ヘ十五間右ヘ十五間左右ヘ十五間間ノ真中ノ足軽五人五間進メハ小連トナルトキ

朱書

又別法

左ニ三所ニ其便利尺セシトイヘ共左右足軽二組ヲ胴筋十間ヒロキ左右ヘ大連ニ立タルノ左ニ三術如ク配ラシトメハ左右足軽胴筋ニ支ヘテ間クリナラス故ニ左ニ法ノ出ス如図一五ノ組前ヘ五間出テ組ハ不動ノ居ルヤハ一三五ノ組ニテ先ツ小連ノ形トナル大ロリ左ニ胴筋アクハ二ノ足軽胴ニテノ方ヘ三十間開キ前ヘ五間出ル四ノ足軽モ同ク右ノ方ヘ二十五間ヒラキ之ツヤハ全ク小連トナシ又右ニ胴筋アクハ四ノ足軽左ヘ三十間開キ前ヘ五間出ルヤ二ノ足軽左ノ方ヘ二十五間開キ小ツクトナシ其心得同シ前ノ法ナ五間先左右ヘ開キタルノ左ハ左右ハ右ノ方ヘ計間十五マテノ連ト知ルベキ

二十人足軽大連ヨリ小連ニ直ス法



右大連ヨリ小連ニ直ス法右本ヨリノ数且ツ其数ニ本付テ定メタリシ法左ニ出スアル如シ

按ズルニ右ニ出セル如クニテ其法詳ニ備リタルアルカントイヘモ十五人出テ左右ヘ開クノ法ハ右本ヨリタレヤニ数ヘタル法ニメタレアナルヿナメレトモ只一キ足軽大連ノ小連ニ直ス法ニハ其法如何ニモ便捷ナラメサレト左右足軽ニ組相並テ胴節ヿ間計モ隔テ左右大連ヨリ右ノ術モテ小連ニ直ホサレトレテハ胴節ノ方ヘ開クヘキ左右ノ足軽共ニ其開クヘキ程ノ地ヲイコレナク左右ノ足軽ヲニ支ヘテホフラノ形クナス一キノ地ナレサレトトテ其意

ヲ兼テナレ置テ左右足軽小連ニ開クヘキホトノ地型ノ積リテ小連ヲ立テ一キ程ノ中間ニ立ツキテ法ノ如ク左右ニ開テ大連トナサンモ甲斐ナク不易ノ法ニシテアタレ是等ノ障アレハ中十五人出テ左右ヘ開クヘキ小連用レハ只一キ二十五人足軽ニ用ヒシノ法トナレテト前ニ図ル如ク右ノ足軽右ノ方ハ計ヘ左ノ足軽ハ左ノ方ヘ計ヘテ小連トナストキハ胴節ノ方ヘ左右ノ足軽支ヘ可キノ忠ナクメ其法コレトイヘニ如此ルサハ右ハ右ノ配ヤウ左ハ左ノ配リヤウ各異ニメ其法ヲ別ニセルハナラス又二十三十人足軽ノ配ラシモ一法ノ以テルルアタハス又シ

ソレニ別ニ法ノ立チハ叶フ（ヤラスコレモ亦煩ハレキ事
ニメ不易ニ云（ヤラス兎角変ニ便宜キハヤレコニ障多
コタニ利多キハヤナタニ害出来ル者ニメ一般ノ通法トナ
スニ堪（サルヿヲ思ルヿ大息ス（キヿト思ヒレニ近来大
田原為政ナリシ人調練ノ工夫ヨリ得タリシ一法尤其便
利ヨシ左ニ其委細ヲ圖ス

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

朱書

大連ヨリ小連ニ直ス法第一変

右足軽人数

一二三四五六七八九十十一十二十三十四十五十六十七十八十九廿廿一廿二廿三廿四廿五

左右ノ間八間程隔テ押入足軽人数略図上ノ足軽足軽人数ヨリ右ノ方ノ間隔相等ニ二ツノ足軽段々二歩ノ人ノ続リニ右ノ方ニ十五間ノ間八通ニ五ツレ右ニ十五人同ニ並終テヨリ六ツノ足軽五人出ル十五足軽ノ立場ノ右ニヨリ六ツノ人ヲ十六ヨリハ

右足軽人数

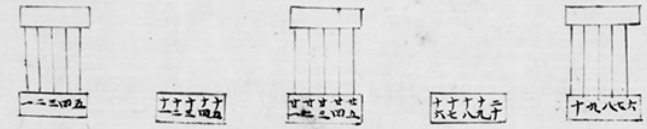
一二三四五六七八九十十一十二十三十四十五十六十七十八十九廿廿一廿二廿三廿四廿五

二十ツノ五人ニ同ク出ル大足軽ノ右ニヨリ十六マテト次第メ五ツ人十ヨリ六ツノ五人出ル十六足軽ノ左六ツ十ツノ人ヨリ十ツノ人ヲ出ル十之軽ノ次ハ右ヨリ十ト次第メ人充ノ出ルヨリハ一位ノ間五間ヲ置タル形トナシ

左ノ方ニ同シ法也

朱書

同第二変小足整ル図



右ノ足軽ニ足同シ図略之

元来此配様ハ兵書雄鑑系師鑑ニ見ユ出テヌル一二三四五六七八九又九八七六五四三二一ト三ルノ意ヨリ出タリ此一二三又九八七ト三ルノ思フニ四頭八尾常山蛇勢ノ深意ニシテ九ニ至リ変メ又九ヨリ一ニ至ルヲコレ則陰陽ノ盈虛四時ノ消息循環不盡ノ妙ヲ数ヘレ名歌

サレハ二十五人ノ足軽一変シテ二十五トナリ二十五変シテ一下ナル其作法一歩一人ノ積リニ段々ニ先ヲ跡ヘ行キナヤラ残メ配ル中ハ二十五ノ足軽変メ一ノ立場トナリ二十五人立ツ一キ数ハ必二十五間トスル別ニ等数ヲ依ラスメ顕然タルヿ所謂人ヲ以地ヲ測ルノ妙シ足ヲ依リニクリ行ト吟シ且此法ニ拠リテ足軽配ヲ八書ニ二十五人ノ法ニ此ル一キニ非ス又二十三十五十百ノ足軽立ンモ

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

亦同一法ニシテ露達ノ支ナカラン不易ノ法ニモニシカ
大連ヨリ小連ニ直スル法右ニ図スル如ク五人完沢第ニクリ
上テ先ツ小連ノ間数ニ直シ終テ後陰陽ヲ配シ中ハ真間数正ノ
レテイヤニモ便利ナリトイヘ迂来又異論起リテ穏アナラス
其訣ヲハトイヘハ五人ヲ沢第ニクリ上テ小連ノ間数ニ直ス
可真間数正ナリハ左モアルヘシサレトモ数頗細ニ過テ伍
々ノ混雑ナキニシモアラス又古来ヨリ数ヘ来レル中十九人
出テ左右ニ関ル法ノ失テ我意ニ偏ルニ似タリトヲシ
大田原氏コレヲ思量シテ又一ツノ法ヲ得テ是ヲ示ス其法左

ニ出ス

大連ヨリ小連ニ直スル一法

足軽二十五人完左右法ノ如ク胴筋十間ヲ隔テ左右ニ押行テ
備備ニ直おサレトスル可ニテ足軽大連左右皆此心ヲ合図ニ
二組ノ足軽前ニ三可如キ常蛇ノ首尾ノ格ヲ以テ左右ニ
一文字ニクリ上ル〻今仮リニ名付テ
経行ト呼ブ

朱書

常蛇首尾二行ヨリ大連線行之図

一二三四五六七八九十十一十二十三十四十五十六十七十八十九廿廿一廿二廿三廿四廿五

一二三四五六七八九十十一十二十三十四十五十六十七十八十九廿廿一廿二廿三廿四廿五

一二三四五六七八九十十一十二十三十四十五十六十七十八十九廿廿一廿二廿三廿四廿五

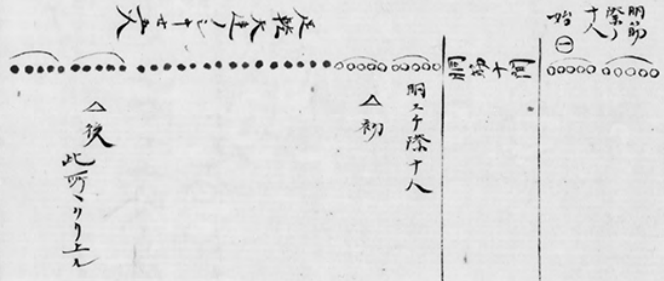
東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

朱書

如圖左右ノ足輕胴ヲ十間ヲ隔テ左右ニ二十五間ノ大連ニ配シ
特胴節ノ方ニ立タル二伍十人足輕左右ニクリ出テ右ノ方ハ一初
ニ立タル足輕ノ前ニ出左ノ方ハ一跡ニ立タル足輕ノ跡ニ出テ一文
字ニ並フ中間ニ大
連ノ放出来シ
圖左ノ如シ

後ニ此所ハ繰上シ

大連中ヨル圖

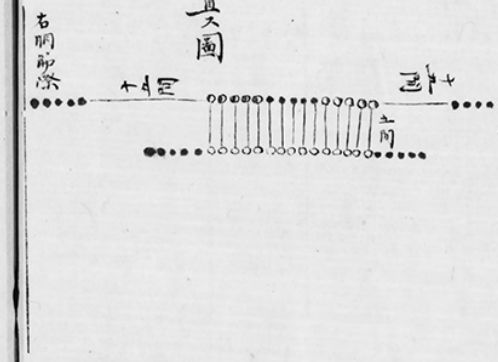


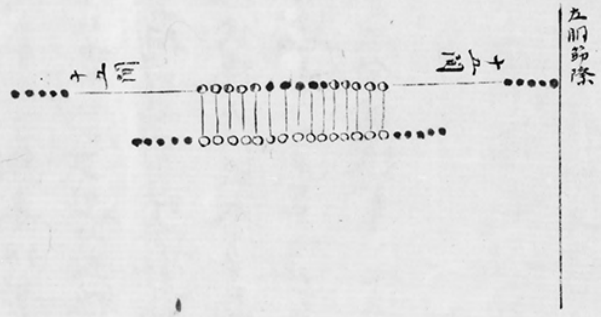
東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

朱書

如此位ヽ整テ古法ノ如リ左右ニ中三五十五人ノ足軽前ヽ五間出テ
左右二位十人宛ノ足軽各十五間ヅヽ間十五ヅヽ八法ノ如ノ胴節際
ヨリ左右四十五間ノシキノ小連配リトナルヽ真図如左

大連ヨリ小連ニ真ス図





東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

此一法大田原氏ニ夫ノ分配ヲ私意作為ヲ不用只大連ヲ十間
ヲ中ノ方ヘコセテ法ノ如ク小連ニ直ス至極ノ良法ニサフハ古ヨリ
数ヘ来リシ法ニコヲ實ニ間然スヘキ所ナク其考ヲ畫レタリト思シ
ニ後世ニ至テ又如此便捷ノ法出来リシモ怪ムヘキノ一事ニシテ
天地ノ間大等数ハ色々ノ人力ヒテ極メ尽スヘカラサルヿ此ノ
法ヲ以テシルヘキヿニヤ今調録專ニ此法ヲ用ヒテ人ヘ尤便
ナリトス

廻レ圩九圩或圓龍ノ圓圩又廻圩之事

廻レ圩圓圩龍ノ廻圩ハ世ニ同シ心得ノ様ニ数ヘ有多シ其惑ヲ解
シテ左ニシルス辨ス

廻レ圩トハ一ハ真形ヲ真九ニシテ廻リ〻圩ノ一ツヲ(元元来廻圩ト
云ヒ強ケニ其形円ナルニ拘ハリ一ヲ者ニ非ス廻ストハ一方ヨリ軍初ニ
手先ヲ廻ハス又備ヲ廻ス人数ヲ廻スナトハト同シ廻スノ義ニテ
リヤ〳〵總テ循環スルノ義ニテ其所ノ圓ナルヲ云ニ非)ヿ明ノ
レ傳書ニ狹キ紙ヲ十ナトノ足輕合ニテモ少シ廻スヿ一ヲ小路ア
ラハ鉄炮ハ廻リ圩ヲシテ五人ヲ組合左ノ方ヨリ五人出テ圩拵ヲ

引其跡ヘ五人入替テ打シトヽヽ此説ニ拠テ見ルトハ廻レ打ノ本意ハ人数ノ循環ノ車ヽルノ義ニテ引ツリ拭リクリ引ノ意ノ本トシタル者ニテ其形ノ円ナルニ非ルヿ明ナシ（按ルニ廻レ打トヽヽ定リタル形ナレハ円形ノ廻リ打ナリ）戸打ハ戸形ノ廻レ打シ雁行ハ一ノ五ニテノ廻リ打廻リ打ノ吹ナナリコレニテノサトリ知ルヘキニテ

丸打トヽヽハ（車打ニ三ツリ）ヲ鉄炮組合セタル者ハ三ツ中ニ一面ニヲテ鉄炮ヲ外ヘ丸ノ立テ廻リクリ打シ後タル者ハ五人レ前ナル者ハ鉄炮放スシ（按ニ茲ニ丸ノ立テ廻リ打ヽヽルトヽヽヿ服ノ分一打ナルヘシ廻レ打トヽヽ者本ヨリ其形円ナルニ限ル者ナラハ丸ノ立テトヽヽハ不及歟廻リ打ヲ丸ノ立レハ丸打トヽヽ者シトヽヽ義ナレハ前ニヽヽ如ク廻レ打ハ

其形圓ニ不拘ヿヲ知ルヘシ

丸打ノ打ヤウ二十五人ノ足軽ヲ圓形前後左右ニ五人ノ足軽三五歩モハヽヽ出テ鉄炮打放ヽ其間残リノ足軽一同左廻リニ其跡ヘ丸ノ詰ル中ハ右ノ方ノ終五人可立程ノ空地出来ルヽ備初廻出打放レタル一伍ノ足軽鉄炮打放レ終テ引ケテ右ノ方ニアル所ノ空地ニ入リテ五人ヽヽヽ其時又前ノ方ニヽリタル足軽五人初ニヽヽ如ク廻テ打放ヽヽ中残ノ足軽一同如初左廻ニヲメヨル支始ノ如レ幾四ヒリ立替リ打ツヿコレヲ丸打ノ法トス圖如左

朱書

第一九打本図

第二人前進図

第三足軽左廻跡明図

第四前進ダル足軽右ノ方明間ニ引入図

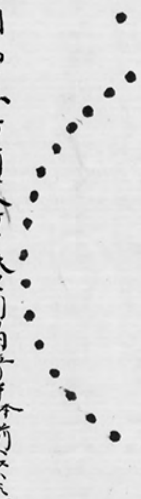
此廻リ打ノ手数ノ細ニメ一人充廻リニ打タスルヿアリ数ノ細ニスルハナルヿナレトモ人充ウタスルトキハ一位ノ組合抜レタニテリテヤモスレハ位法ノ天ノ一宮アリ充心得可有義也

又五十七十ノ人足軽ノ法如前法九打セントシテハ事煩ハシクノ便ナラス人足軽ノ時左ニ出ス

人足軽九打ノ法ハ前五人三五間進シ出テ鉄打ノ事前法ノ如シサテ右五人之軽進シ出タル跡ヘ左ノ方半円ノ足軽左ノ方ヨリ一同ニフメヨスレハ後ノ方五人可之程ノ空地有シサテ前ニ進タル五人ノ足軽各鉄九打終テ後ロニアキタル空地ヘ引入ヲ以シ其中又先ニフメヨセタル足軽五人如前三五間進ノ鉄打シトスル内右ノ方半円ノ足軽右ノ方ヨリ一同ニフメヨセ後ニアキ間出ル中前ニスヽシタル足軽鉄打シモテ引入ル中如前如此幾回ニク習ルクウタスレハ其便ヨレトモリ是ハ一圓形ノ半躰ニ分テ左ヘフメル中ハ右ノ半円ハ不動ノ押ヘ右ヘフメル中ハ左ノ半円ハ不動押ヘル五極ノ長法ヒ此法九未扶桑流トスル共

朱書

法ニ傳心処ナレモ大之軽クワハレニハ事簡ニメイワニモ使ん故茲ニ出ス



図如左ノ方前之人打チ後ニ引角戸ノ半弦前ヘスミ廻心故其陽ノ明ナル所ヘ今打ん人ハ立テ左足ん中右ノ方ノ半弦ノ前之人出ノ鈴ヲ了前ノ如シ如此左右半弦ヘ一度宛リニ廻リヘウワモ

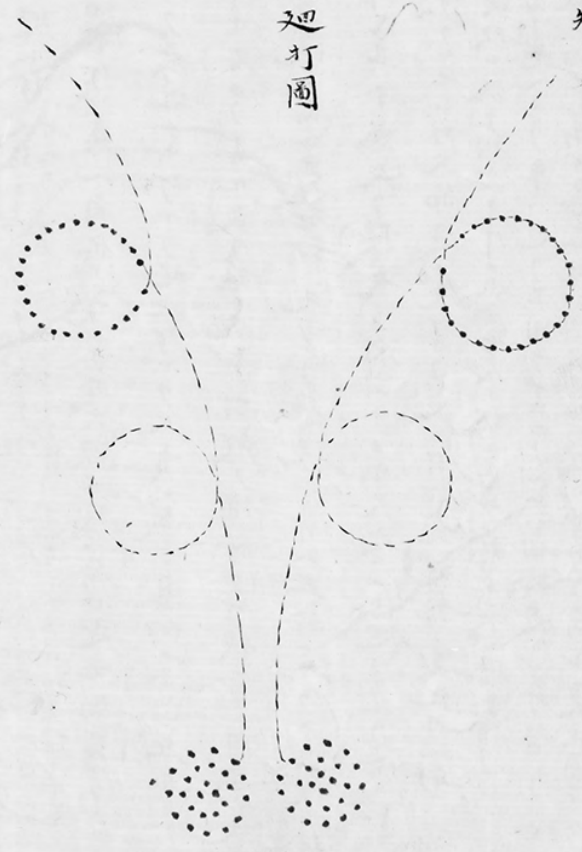
龍之廻レ打 又龍ノ九 打ヒカ

龍ノ廻レ打ハ変化自在ノ義ニテ或ハ伸ヒ或ハ屈レ走ル形ナクメ其妙ヲ象リタル打ヤウモ此打ヤウ大方ハ敵ノ真向ニ不出左ヨリナリ此右ヨリナリ此又リ形ニ流レテ出敵ノ脇脇ヲ打秘ノ中ニ用ル心左ヘ流レ出ルトキハ右結ニ九ノ子リ左ヘ流ルヘキハ左結ニ九ノ子了定法シ其本意又リ形ニ長ノ足出テヨキ矢此ニ一ト廻リモ二ヲ廻リモ敵ヲククセレ打又鈴達ニ長ノナリ足ヒ出ルシ此所龍ノ変化自在妙レテ其形ニ就テ拘ルキ了ニ非ス古人ノ説ニモ車ト龍ト其心得ニ替リアリトスル了見ヘタリ車ハ廻リヲ用フナスモノシテレハ始終廻ヲナス打替打ヲ敵ノ防キ惑ス意シ 此ヒ前ニ云フ廻ヒ打ノ意 龍ハ或ハ伸或ハ屈レ変化自在ノ妙是龍ノ本意シ車ト竜ト心得替可有ヒ了此理クハシテ云ノ

朱書

ルトハ知リス

龍之廻打圖



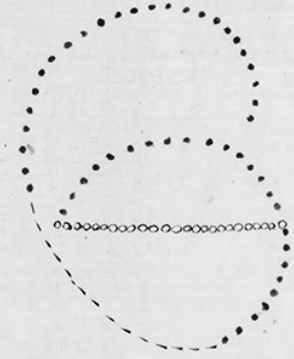
足軽大廻之圖 車打ニ云

此ノ大廻トハ正ニ乱ノ素行子ノ書ニ見ヘシト
其細ナル法ヲ云ヘレ此図ハ武田流足軽合戦
ノ手ニ出タル図シタルヲ大廻ト云ヘシ
ヲト其意大廻ノ法トハ足ノ名ヲ云
ニ記シヲ見人有其得ヲ及量入ヘキノミヲ

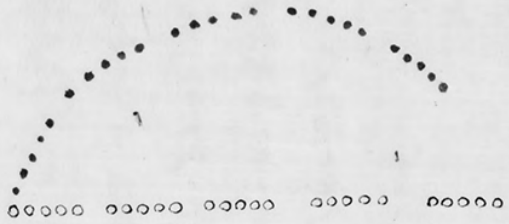
朱書

又按ルニ大廻トヨリ專ニ虛實ノ心得其習アルヨリ敵ノ術ニヲマリ整ノ動ナサルヲ誘引ノ為ニ最直ナル術シ其本意ハ中馬車拉術意味ニテ引ルト見セテ敵ノ暗ニ襲ヒカヽル（中法シ竹ヤウニ深キ習ナシ天性ノ組合ノ正ノメ廻リナキ敵ニ向フ有欲ナツ（レト定ルモノ敵シ渾沌深味微妙ノ心得可有ル）

又一方ニ如図大ツヽノ手ニ立タル足軽ヨリ前ノ方ヘ九ケリヲ廻リヽ竹ヲヒロシ其縁心得ハ竜ノ九トカルヿナケレト能ハ廻リ化連ハトヨリモ廻リヽヲスムヤリコレ敵ト車ト其事サリ殊ニレタル）



片廻之圖 片車ニ云



素行子云ヒ所ノ名目ニ片廻トヨフナレ共是足軽廻合十二ノ手ニ片車ト云フ多ク見ヘタルハ此立ヤウモト車竹トヨモ同意ナレハ其片車ト三本付テ片廻トシノ法ノ斯ニ出セシ後人作意ノ性ハフナアルヘシ

片廻ハ如図大連二十五人ノ大陣ヨリ前ノ方ヘ廻リナヤフ廻シコレモ五人一組ヲ敵ニサレ向ノ五人欲竹フ大廻シノ方ニ替ルヿナレ共大廻ハ孫ヨリトルト見セテ後ヨリマハレ片廻シハ一文字ニ端ヨリ前ノ方ヘ汁廻シ立（片廻トハ名付ル）但シコレハ一度廻リテ本ノ大連トナル）

コレ片廻シノ心得ル

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

朱書

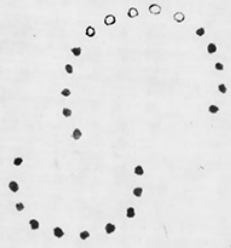
又半斛二成廻ノ法アリコレモ他ニ素行子等ノ書ニ出ス所ノ名月ニアラス十二ノ子ノ内飛龍ノ手ヨリ出ル所ノ法ニメ一図故ヲ半斛マ今ヲタトヘハ二十五人ノ足軽十五人ト十人ト二ニ分テ先ヲ十人内敵向フ五人鉄炮ヲ拂ヒ右ノ方ヘ廻ル中次ノ五人ヲ拂ヒコレモ右ヘ廻ル其時半斛ノ十五人ノ頭ノ五人ヲ拂ヒ如此次第ニ各廻リナフラ五人宛ヲツシ

第一変

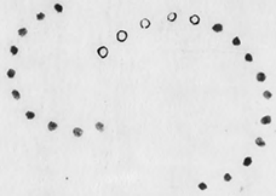
第二変

第三変

第四変



第五変



東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

朱書

又同法十五人ト十人ト二段ニ立テ二度ニ替リ打フ法アリ其時タレヒ飛龍ノ手ノ如ク其形クヒウメテ立ル中ハ一段一度宛ニウタルヽヒ

按ニ此法一段一度ニ打拂フヘシトイヘトモ前側ノ人連度ヲ打故トテハ敵ノ付入ノ患有レト底ルヽハ前十五人内前後ニ五ツ可ニ位十人ノ足軽ヲ以テ故レ五ニ五人ヲ又中五人ノ足軽打フ廻リ後側ノ十人前側トナリ事コレニ一位ヲ見リ合ヲ切ロクヒヒ敵付入ノ怨レニシレサレト前ノ列同ニ打故シタリル今一側後側ノ欽地アレハ敵ノ付入ノ戒ニモ不可及ト同其敵ノモロウニモヨル一キニヤ

第一変

第二変

又按ニ此飛龍ノ打ヤウ二段大連ト同意ニメ大連一文字ヨル クサビクノリクトウテ形レ名ニテノ連ナレハ其底伸ノ可ナレノ意味タル一中者ヽ

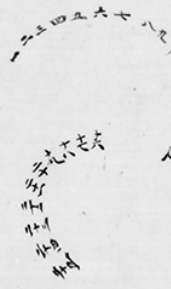
又一法ニ圓ノ如ク二十五人ノ足軽ノ内十五人ト十人ト半円ニ躰トナレ前側十五人ノ足軽内敵前ニテル足軽五人ニテモ十人ニテモ鉄打放ス ヽ 其時後列ニ立タル半圓十二人ノ足軽ノ未二十五番目ノ足軽ヨリ半円敵ノ廻ニヤヽレ今マテノ前列ノ上ヽスンレテ又元トノ半圓形ニ立フ中ハ二十五番ニ立タル足軽大前トナリテンレヨリ段々跡ヲ先ヽ廻ニ立フヽ是モ敵ニサレ向ノ方ノ五人鉄打拂フ中又後列十五人ノ足軽コレモ同ク廻ニ廻テ廻ムテ如始如此幾廻モヽハリヽテクリ替ルヽ

按ニ此法未ニ出ル方打左右ヨリクリ拉リト其意同クメ其

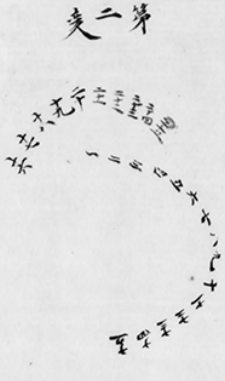
朱書

業方圧ニ比スレハ頗ル迂ニシテ便ナラサルニ似タリサレト又
敵ノ月ノ誤ラレメ我歩ノ晴ノ中ニ至テハ其効用少ナカ
ルヘカラス一概ニ可論変ニアラス其圖左ニ出之

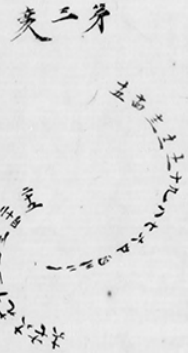
第一変



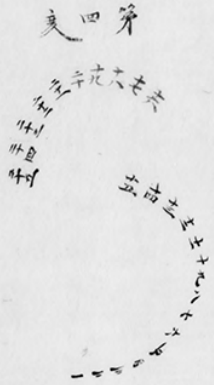
第二変



第三変



第四変



東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

又一種ノ廻リ打ニ三戦ノ打ヤウトモ有コレセト足軽せり合ニ云ニテ
又陣法ニ三戦トモ云テ同日同処ニテ三度ノ戦法ニメ其法タトハ前三
備敵ニ合テ四備ニテ敵ニ合フ時初度ハ前備ニテ戦フナレ二度目
ハ前備ノ後ヘクリ左備ノ前ヘクリ後備ノ左脇トメ戦フナレ三度
目ハ前備ノ後ヘクリ右備ノ前ヘクリ後備ノ左脇トメ戦フ時ハ同
日同処ニテ三度マテ戦フキフフタんしソレノ足軽人合ニ移シ
用テ足軽二十五人ノ内弓組五人ノ中央ニ一文字ニ立残テ鉄炮
足軽二十人ヲ五人ヲ〳〵四ツニ合テ譬ハ疾利ノ敵ノ如ク前後左
右ヘ五人宛立テ前ノ五人鉄打揮テ弓組ノ右ノ脇ヲ通リテ後ヘ

朱書

引トん真間ニ左脚ノ五人前ヘスヽミ後ノ五人左脚ヘスヽム故今マテ前ニ立タん五人ノ足軽ハ後ロトナリ右脚ノ五人ハ始終不動レテ押ヘ居ンシ前五人鉄打拂ヒテ弓之軽ノ左脚ヲ通リ後之引トんけ右脚ノ五人前ヘ進ミ後ロノ五人右脚ヘスヽムシ如此左右入ケヤヘニウツテハ引打ナハ引クけハ是ナリナク真便利ヨシト云リ只左進ムけハ弓組ノ右角トヨリ引右スヽムけハ弓組ノ左角ヨリ引クリ習シ真図如左

第一変

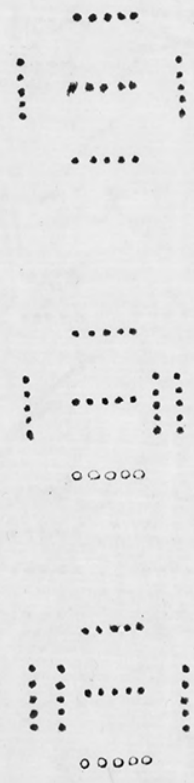
第二変

第三変

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

朱書

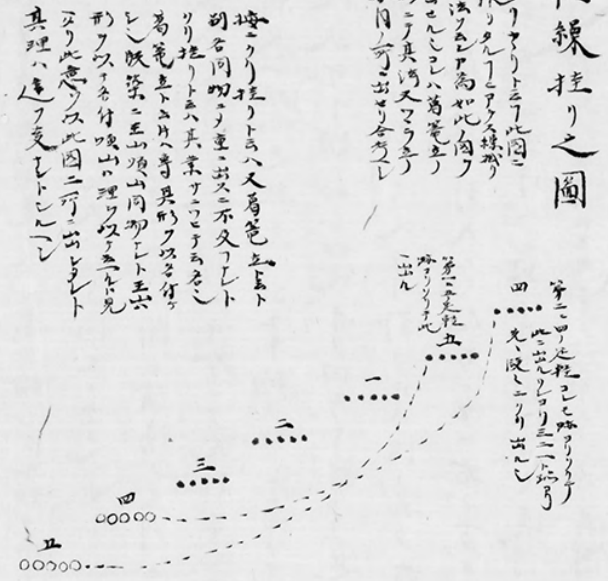
又四方ニ敵ノ心モトナク思フ時ハ真ヤウ延ハ前ト同法ニテ
真立ヤウ常蛇ノ如クニ圖左ニ出ス



一繰拉リトニハ前小連ノ条ニ委ク論シタル如ク小連陰陽ヨリ次第
ニクリ拔ル本法ナレ共又一種ノ法左ニ出ス
足軽ノ一行ノ如ク立テ位ノ間モ陰陽ノ差別モ各五間宛ニメ一
隊ノ五人先ヘ出テ敵ノ押ル中今マテ先列ニテル五人ノ足軽鉄砲打
掛ル内又一跡ノ足軽先ヘ出ル一初ノ如クニテ押ル中今ノマテ先列
ノ五人鉄打ノ初ノ如シ如此イク回モ〳〵跡ヨリ進テ押ル時ニ段
ノ足軽鉄打放スシ又クリ引ノ中ハ法ノ如ク前一段ノ足軽鉄
打掛テ直ニ一跡ヘ引入ルシ尤右ナラハ右ノ方ヨリクリ左ナラハ左
ノ方ヨリクルト心得ベシ引クリモ同ジ事ニシテ真得小連クリ掛リト
違フ変ナレ共ノ違ニタルモノ皆リ　○真図左ニ出ス

朱書

足軽繰挑り之図



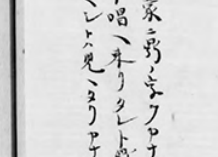
左右繰挑図

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

朱書

又鼎引（ハンセ）ト云モ此法ニ同シ但鼎ノ足ヲ借テ名付シ者ナレハ三脚ヲ以テ丸ノ本義シコレヲ足軽合ニ轉用メ三位ニテ入（ノ）ニ懸足ハ丸シ此法ニ提テタト（ヘ）二十人ホ五人ノ足軽ニテモ一位ヲ殺段モ重ニテ左ノ跡ヨリ出ル者右ノ頭ヘ出右ノ跡ヨリ出ルモ左ノ頭ヘ出テ次第ニクリ入ルシ又引ケモ右ヨリ左左ヨリ右ト引入セ只前ノ二段クリ引ハ右ハ右ト引左ハ左ト引此鼎ハ右ハ左左ハ右ト引クマテノ替リニテ懸足共ニ其心得ハ同シ

鼎引圖



按ニ此鼎ノ字和訓ヲナヘトヨウ若家ニ鼎ノ字ヲクワナハト訓マセ他流ニモアナハヒキト唱ヘ来リタレトモノ字アナハノ訓ナレハクリタヘレトハ見ヘタリアヒニヨリトハ丁本意ナルヘシ

又衡軛クリ引モ其法ハ丸ナレサレト衡軛陣ノ本意ハ二手毎ニ横ノ持ツヲ主トシタレハコレヲ足軽合ニ轉用メ二十五人三十人ノ足軽ヲ二行ニ分テ右ノ方ノ一位ハイツモ鉄炮ヲ可ト狙トシ左ノ方一位ハイツモ押ヘル狙トスル丁本意ナレハクリハル度毎ニ右ノ方ハ打ナ左ノ方ハ押ヘルシ又クリ挽リ道節モ二節ニ分テ何レモ左ノ方ヨリ掛ルナレハ右ノ足軽ハ胴ヘケヲ通リ左ノ足軽ハ左ノ端ヨリクリハル（シ）尤右モ左モ一度ニ五人ヲ十人ニ節ニ仕ミテクリハル丁シ衡軛ノ本意シ　又一法ニ此法ニヨリテ替ルヲ打ナハルヘク押ヘルモ其道節ヲ二スケニ分テクリハル丁是衡軛横ノ持ツ心得

朱書

し其圖左に出す

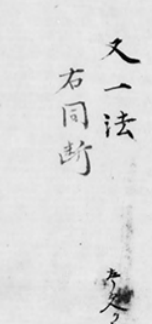
按に前に云へり是軌合に備ノ名々不用ノ古法なれハ衡軌トも是軌合ハ無之しかれとも引ノ一変化に種々假り備ノ名々借りて分明ナラシメン為トス実ハ方圧々左右に立タルなれハ左右方圧トもいフ本義し

衡軌本法

又一法

衡軌本法

是図前丁に出



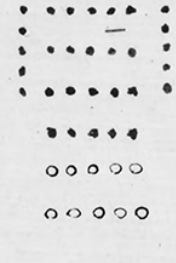
又一法

右同断

朱書

又方打クリ拔リハ五人ヲ幾段ニモ立テ一隊ノ五人ノ左ノ方ヨリ一先ノ足軽ノ脇ヘ堅ニ出テ押ルヤ一先ノ足軽五人鉄打拂ヒ終テ堅ニ出押ヘタル足軽今打放レタル足軽ノ頭ヘ至ルヤ又跡ノ足軽此度ハ右ノ方ヨリ一先ノ足軽ノ脇ヘタテニ出テ押ヘルヤ先ノ足軽打拂ヒ終ル所ヘ其頭ニ立テ如前如此メイクタビモリ拔ル

（按ニコレハ敵ニ向フ足軽又一列ニレテ分ヘ押ヘテ足軽無之敵跡ヨリ其脇ヘ出テ押ヘテ持タルヘシ又地ニヨウテ左ヨリ計リニ右ヨリ計リニ一方ヨリアヽリテモ同ジ）サレト左右入替リニアルヘシ其使利ヨタル〳〵



一一手鋒矢ト足軽一手ノヲニ非又啓蒙ニモ一手鋒矢トハ中ニ居ル足軽ヲ立テ敵ノ氣ヲ集メ左右ヨリ破ルトモトミヘタレハ一備三組ノ足軽ヲ集テ鋒矢ノ形トシタルニテ足軽一手ノワザニアラス先木鋒矢トモハ傳書ニ其形鋒矢ノ如ク先尖リタルト有モ其名實全レニモアタシ按ルニ此備鋒ヲ以形トナシ矢ヲ以テハタラキト成スヲ本義ナランヤ鋒矢ノ備ハ二二二甲二二乙如此甲乙ト二段ニ立ルヲ本義ナレハ其形ハ先尖リニナル鋒矢ノ形ニ二段ナル所ハ傳書ニモ甲乙一ト手ノ矢ニ命ヘテ其御ニ前後有所ヲ以主ト云ルナレハ矢トモ云ハ其御ヲ以名付レヲ明ラケシサレハ

三手五手ニハ一段ニ二ツ如此なんクス鋒矢トイヘんも其名
実クスク論セハ當レリにもカタヤラレヤサレト立備クス其意ク
論たん中ハ中ノ二備ハ鋒ノ形ニテ敵ニ合ヒ左右ノ二備ニテ脇ク
合リスル所甲乙一手ノ心ク合ヒタレハ名實ニ背キタリにも
ヘラサルヤサラハ一手ノ鋒矢ニテモ中後ニ軽ニテ敵氣ク集
メ左右ヨリ破ルク主トスんトコレ鋒矢ノ用ク合ヒタん所アレハコレ
ニ亦鋒矢ノ名用ナキニレモ非ンヘシ足軽一ト組ニテ中ク張出シレタ
ルクセニ鋒矢トスル名用見ん所ナシ（右ノ書ニ云所ニ軽備ニノ一小
連大連一連ヤハ筒竜ニ流シ
ニ莫手時素頭陰陽方ヲ心得大巡レフんヘ打
シリリリリヤリクリリ如是事常ニ習練スヘシ）右ノ内將棋頭ト云

立様ヨリ足軽一組ノ鋒矢ノ形ニ似タんモノナレハ此ノ足軽立象
素頭ト唱ヘテ古法なん（刎先鋒矢形或杵形ナト様シニ名ク
レト素行ヨリ流ニ従テ時素頭ト唱ヘシ）此立ヤウ元来大連小ツラノ足軽敵前近ケリ
テ真殺ク内ク中フリフニヘノ字ナリニナリタん所ニテ別ニ真
法術アんニアラス又セニ此鋒矢ノ形ク敵間近クヨリ配ナ真
形ク不前ヤんノ法様々ニ私意作為レテ杜撰ん術多シ
前ニモ云如ク此法大連小連ノ一変法ニメ已ニ敵間ニ近ん時
ハ矢ヨリ先ヘハ分ナモスハ中地ニアクヌハ与其代ニテ位
ツメニ詰メヨセ左右ヤハんノ鉄炮ク打放スヨリ外他ニ方術

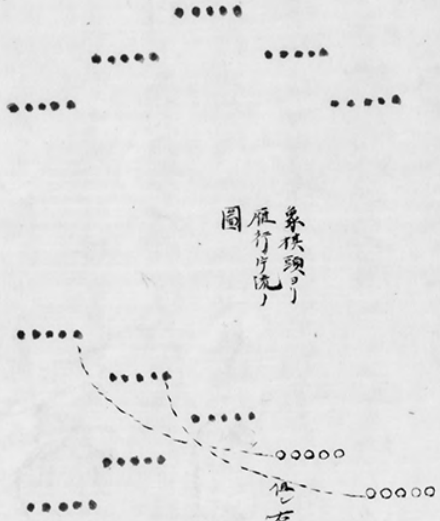
東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

朱書

說クヘキニアラス只其マヽニテ位ヲトリ諾フスルヽヽヽノ心得
肝要ノ地ナレ右ニ論スルヤウノ敵味方間近ノ場ヲメテ
ヲニ法術ヲ用ルヿモアタハサル所コレ象棋頭トナルノ本意ニテ
尤合気ノ位ヽ此所頭奉行功者ノ見フモリニテ事果敢取
可ラスト思フ中ニ其形ヲ咎ヽ一術アリフレトハ雄鑑問書ニ厂行
ト鋒矢トハ一ツヽ子相ハ鋒矢ノ一方ハ厂行ヽアレ一偏ハ押ヽ一
偏ハ掛レトモ其跡フヽレハ形ハ鋒矢ニテ厂行ヽトモ此意ヲ考
ルヤハ象棋相気ニナリテ敵リアタキヤハ右ノ方ヨリナリニ左ノ
方ヨリナリニ横スケヤヽニ片ヽ流レテ厂行ノヤウ拵ルヤハ相気変レテ

敵其方ヽ向フヤハ跡ニ残リレ半躰ノ足駐ヲ横フウタヽヽヽ相気ヲ
特メ合気トスルノ一術ヽ。其図左ニ出ス

足駐象棋
頭立之図

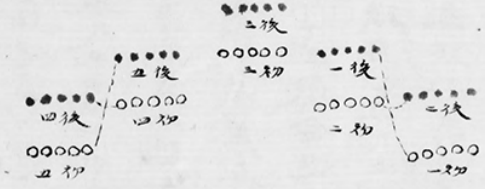


又近世象棋頭クリヤリノ法シトテ其形法ノ如リ立テ中ニ三四
三組十五枚ノ鉄炮一度ニ打拂フヤ左右一五ノ二組二四ノ組ノ
上三ノ組ト同シ並ニ立テ其内前ニ打放レタル三組五人終テ
其内三ノ組ハ前ヘ五間スヽミ二四ノ二組ハ左右ヘ十間充開キ押
ヘル中一五ノ二組打放ス其時左右ヘヒラキ押ヘタル二四ノ二組一五組ノ
上ヘ出ル其内三ノ組五人終テ五間スヽミ一五ノ組ト同五人ノ左右ヘ
開ク中二三四ノ三組打放スヤ如此幾回モクリヤ〳〵迄ムケハ三組
ト二組ト替ルヽ打横リニメイワセ将棋頭ノ形ノクヅサス常
其使利ヨレトモ〳〵リサレト前ニ論ズル如ク象棋頭ハ多クハ敵

前迄クナリテノ形ナレハ練リヤウ一キ理ナレトリ〳〵ニ其変化一
概ナルモノニアラズ。ヨハ此術モ亦所ニヨリテ其利用ナキニシモ
アラスハ足軽合御ノ為ニ茲ニ記レヌ
梅ニ此法二十五人ノ足軽十人ト十五人トヤハル〳〵ニ鉄炮ウメ
ルヽ丁尤其得アル丁シサレトクリヤヽリハ一組ノ足軽ムケナク
更リ合ノ正ナク以テ主トスル也其打ヤウ左右ハ前後五ニ
更リ合トイヘル中ハイワセ中ニメ然ヤモ敵合迄キ所ニハ丁
練技ノ本意ニハワルヽ丁一得一損其考アルヘキ

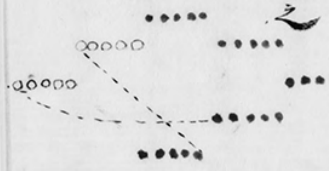
朱書

象棋頭練技之圖

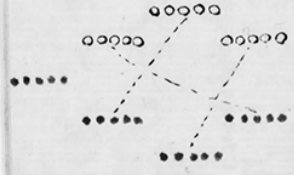


又鉾矢ノ形ニテクリ引ク試ルヿ有ル未鉾矢ハヤンリ形ニテ引クリ中ニ用ユヘキ形ニアラス象棋頭ニテ拵リヤタキ勢ニテ引トラン必左右マヽフノ形トナリテ引トル丁定法ニ又象棋頭ニテ敵ト相ニナリ勝負ハヤトリ兼ル中一計策ヲ以敵ヲ誘引アントスル為ニ其場ノクワロケントスルハ象棋頭ヨリ其ノ手ノ行ニナスヿ心真頭ニ左ニ図之

象棋頭ヨリ左右角竜トナル図



象棋頭ヨリ弯月ノ形トナル図



東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

一一手弓月トモハコレヲ鋒矢ノ茶ニモ如ク一備ニテノ業ヲ之軽
一組ニテ弓月ノ形クナスハ前ニモ象桑頭ヨリ敵間ククロクル
ヤノ形ニ同レリミニメ本トヨリ此形ノ以テスル一見ル処ナレ又之軽
二組ニテワラニ左右ニ立ルヤハ則弓月ノ形ニテ一手ノ弓月ニ用
ル所ナリ其圖ワラ立ノ條ニ出ス故茲ニ圖セス
一菊篭立トモハ啓蒙ニ廣ナ処ニテ五寸ノ足軽ヨリ引ク拵法ト
モ菊篭立トモハ八陣ノ変法ニ厂行トモ備ノ轉シタルニテタト一ハ
厂ノ行ヲク不乱行如ク次第クトヽノ小連ニメ敵ク押ヘテ又ハ
為ニモ又押ヘテ縄拵ル為ニ此立ヤウクヨレトス但處狭ク多横ノ
地クイナナリハニハ立ニクレ場ヨレニテ四方ヒニ廣ナ所ニテ立ル法ヒ
按ニ足軽合ニハ八陣ノ名ヲ以モ名ケシ一手ノ弓月鋒矢ハ備ノ
事ヒ足軽合ニハ其名ヲ替テモ一古法ト見ヘタリ此備厂行
トモヘキクワラ立又ハ厂木立ナトモヒ鋒矢トモヘナク象桑頭
剣先ナトモレ一皆八陣ノ名ヲ忘テ其名ヲ設テモタルヒ山鹿
氏ノ軍詞ヲ詞ヤタル中ニモ大軍ノ備ノ形ハ鋒矢弓月厂
行ナトヽモスレトモヒレ足軽合ニ備ノ名ヒテモハサル明證
也深キ意味有ルトハ見ヘタリ
其圖左ニ出ス

朱書

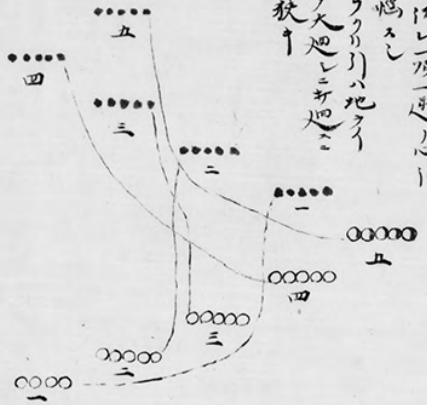
葛籠立足乾繰懸図

前ノクリヤクリノ条ニ委細ニ其法ヲ出シタレトモ、ニ又コヲ
ヒトヨミ名目ニワカリテ重出せんし

入引クサハ一初ノ五人ヨリ打掛フ壺間ノ低ニテ
一踊ヘ下リ其所ニ於テ玉込ェんし
又打掛タル玉ニテ入ヘヲ後クリ引トカ況ヒ
アレル敷前述ス場ニテ玉ヒ出セシ無用ノ伝ヒシ打掛フト
其マヽヤウ間ノママニテサワヒ踊ヘ引下リ玉込ェんし
使利し
又其次ノ頭トけん五人打放レクリ引
如初如此幾回モ打ハ引ソコレ繰引
法し
但クリ懸ルサハイツモ二側ヨリ飲打放レクリ引
サハイツモ初側ヨリ打ヲ足クト心エしコレ
懸足ノ左例也

葛籠立一項一連圖繰

其法前ノマヲ立ニ替ルヲナレ
右、流レ左、流レ一項一連ノ心得
ソコ敷ノ惱ヒし
又前法ヲクリ引ハ地ヲイ
度ヲ六ツヲ人廻レニ打廻ニ
用ル此法ハ狭キ
地ニ用ヲ
其得多レ
トレんヘレ



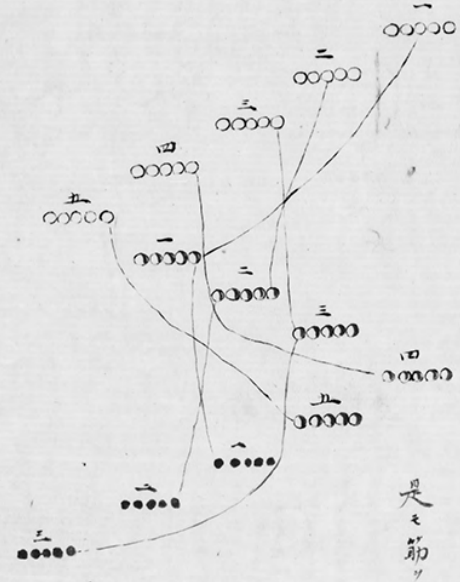
繰引ノ法
第一ニ位ノ五人ニ三四足乾ノ後ロヲ
通リ四ノ間ヨリ出テ五ノ足乾ヨ
リ左ノ方ハ如法五間ホトヒリ立ツ
第二ニ位ノ五人目レヤウニ三ノ足
乾ノ後ロヲ通リ三四足乾間ヨリ
出テ足乾ヨリ左ノ方ヘヒリ立
第三ニ三ノ足乾ハ其左場ヨリ立ニ
出テ二足乾ヨリ左ノ方ヘヒリ立ツ
第四ニ四位ノ五人出テ三ノ足乾。
リ上ヘ立ツサハ左流レ立トナル其
サハ五位ノ足乾足引ノ始ノ
出テ四足乾ヨリ右ノ方ヘ五間
上リ立クソレヨリ段ヘ前ノ法ヤウ
ヤクリテ右流トナルノ其流左
流ニ同レ

○本書誤り有ククリヤクリ道迂遠今調練ニ不ル可ラ黒部改ノ口得

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

朱書

蓍竿立順逆繰引図



是ハ筋ヲ少シ改ル口傳

蓍竿立更転二組左右、分レ立テル図

是一年表月ノ例ニ
月ノ更転ニシ
如此ニ中ハ例ニ
月ノ数ニナルシ更転
合ヲ人是ヲ表ス
上ニ
又其ノ年ノ法ニハ
大ツクノ如ク左右
一流レタルヲモ
也何レニモ左右
ヨリ数ヲハサミ
討ツ年ハ二ハ同
此一法流立ノ条
二出ス

如此左右ヘ分シ立テ年ノ初ヲ左ニ立ツ
替テ一ヲ左右一月ニ跡ヨリ先ヘ次
第ニ分リヨリ初ツサハ数左右ヘ気
ヲ奪ハレ月中ヨリ長柄ニ出テ
前ニ利ナシ人年ニ月ノ中
一法ニ注更転ヲ中ハ更又ハ大更
ニテ有其サハ左右ヘ分ヤウ
程ヲ見合セ中ノ内ニ更転歌ノ
数ハ初ノ内ヲスノ例シ

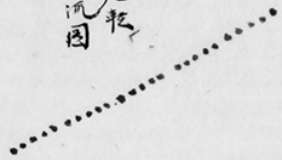
東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

朱書

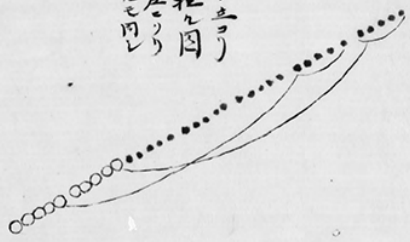
足輕流立圖　又又り取共ち

図之儿所ハ右流ハ左流ノ中ハ左ノ方
如図流ハマヲノ通シ
前ニ言ツヒフ立ハ小通ノ節ヲ入タルハ
此流立ハ大通ノ節ヲ入タルモノ

足輕右流図



流レ立コリ
繰拵ヘ図
但左ノリ
ナルモ同レ



東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

朱書

左右流立図

是ハ其手セち前ノ左右マヒを第手ノ条ニ如ク者敵気ヲ分ケ此用ヲ得アんこレモ一流ノ五人前出ん中ニヨリ形ノフクリやりノ法ト替ヘリナレ共陰陽二段ノ取ヲ合ヘナノ一段間ニ段陰陽ノ心ヲ以合ンテノ足ヲ大事ノ習也

又小連ニ立タル足軽地狭クメ真マヽニテッりやり難キ中一仙ノ足軽進テ二四ノ足軽ノ上三ノ足軽ヨリ左右立間喰違ヘニ二段ニ立ん中ハ如圖ムノ用ノ立ヤウトナん尤コレハ正シク兵書見ヘタル名目ニアラストハ云ヘ樣やりク二段ニ重ル中ハ如此ニナル也コレモ爰ニヨリ真得アん一中故私考ノ交ヘ左ニコレヲ圖ス

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

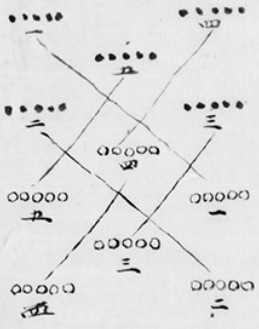
朱書

小連ヨリ
伍ノ月ニ直ス
圖

五ノ月ウケヤウハ四ノ足乾三ノ足乾ノ上ヘ出シ中五ノ足乾銭打
つし次ニ二ノ足乾五ノ足乾ノ上ヘ出シ中四ノ足乾銭打し次ニ三ノ足
乾一ノ足乾ノ上ヘ出シ中二ノ足乾銭ウつし次ニ五ノ足乾四ノ足乾
ノ上ヘ出シ中三ノ足乾銭打つし如此幾回も同し様ニウタスレハ二
十五人の足乾ムクチノ打タルヘし

其図如左

五ノ月縁拭
為打様



東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

GANSHODO-SHOTEN
KANDA TOKYO
東京神田
巖松堂書店

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658

東京大学経済学部図書館
5505747658

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505747658